

### 三つの方針

#### 三つの方針策定の基本方針

三つの方針策定の基本方針	責任関係	備考

#### —全学・大学—

<大学>

卒業認定・学位授与の方針 (DP)	責任関係	備考
<p>立正大学は、各学部学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神を貴ぶ姿勢を有している。</li> <li>・モラル・学識と専門性・能力を掛け合わせながら社会に貢献しようとする公共的使命を持ち、生涯にわたって学び成長し続ける豊かな人間性と自律性を身につけている。</li> <li>・人や文化の多様性を受容し、他者と協働して新しい価値を創造しようとする態度を身につけている。</li> <li>・人間・社会・地球と積極的に関わり、主体的に行動しようとする視点を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間・社会・地球の諸課題を発見し、その機序を探求しようとする思考力を有している。</li> <li>・人間・社会・地球の諸課題を解決するために、論理的・批判的に判断することができる。</li> </ul>		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの考えを他者に理解されやすいように表現することができる。</li> <li>・生涯を見通しながら現在の学びを計画するキャリア形成力を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所属学部学科の専門分野についての全般的な知識を身につけ、理解している。</li> <li>・所属学部学科の特定の専門分野についての応用的な知識を身につけ、理解している。</li> <li>・人間・社会・地球に関する基礎的な知識を身につけ、理解している。</li> <li>・外国語運用能力およびその背景にある当該外国の文化・歴史等に関する知識を身につけ、理解している。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語・外国語の表現力やメディアリテラシー・情報倫理を含む、コミュニケーション能力を身につけている。</li> <li>・修得した知識・技能・態度等を統合化し、活用する力を身につけている。</li> <li>・複合的・多面的な領域への学修経験がある。</li> <li>・課題を発見し、探究し、解決し、表現する力を身につけている。</li> </ul>		
---	--	--

教育課程編成・実施の方針 (CP)	責任関係	備考
立正大学では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。		

入学者受入れの方針 (AP)	責任関係	備考
立正大学では、「モラリスト×エキスパート」の養成という教育目標に共感し、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。本学では、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を身につけるために必要な教育課程を「教育課程編成・実施の方針」に定めています。ここで示す人物像は、「教育課程編成・実施の方針」に定める教育課程において円滑な学修を行うために求められるものです。		
<p>—学力の三要素に即した求める人物像—</p> <p>&lt;主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世のため人のために自らを役立てることに喜びを感じ、そのために人格的・学問的に自分を磨く努力を惜しまない者。</li> <li>・学びを社会的に実践し、これを再び学びや人格形成に反映させることで、継続的な学び・成長を志向することのできる者。</li> <li>・多様な個性を尊重し、有機的につなぎ合わせ、活かし活かされようとする態度を身につけている者。</li> </ul> <p>&lt;思考力・判断力・表現力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けた知識・技能を活かしながら、課題を発見、探究、解決する過程を継続的に実践できる者。</li> <li>・自らの考えを形成し、それを他者とのコミュニケーションを通して適切に表現・共有することで、多様な考えの理解や新たな考えの形成をしていくことができる者。</li> <li>・異知を融合化させ、新しい意味や価値を創造していくことのできる者。</li> </ul> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「モラリスト×エキスパート」としての成長および、入学する学部・学科(コース)における専門性の修得に必要な、基礎的学力・技能や社会的知識を備えている者。</li> </ul>		

#### —各学部—

##### <仏教学部>

卒業認定・学位授与の方針 (DP)	責任関係	備考
仏教学部は、各学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。		
<p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教に説かれる人間の生き方についての洞察を活かし自己の向上に努めることができる。</li> <li>・仏教に説かれる慈悲の精神に基づき社会に貢献しようとする事ができる。</li> </ul>		

<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教に関する幅広い知識に基づき、多様な観点から思考・判断することができる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教に関する幅広い知識を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教に関する諸資料を読みとることができる。</li> </ul> <p>「宗学科」  仏教学部宗学科の課程を修め、下記的能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に対する慈しみと敬いの心を持って接することができる。</li> </ul> <p>[法華仏教コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日蓮聖人の思想と行動や日本仏教の思想を学び、使命感をもって社会の諸問題に対応することができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い教養を身に付けるとともに、現代社会が直面する諸問題に関心を持っている。</li> </ul> <p>[日本仏教コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日蓮聖人や日本仏教の思想を学び、使命感をもって社会の諸問題に対応することができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い教養を身に付けるとともに、現代社会が直面する諸問題に関心を持っている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法華経の精神に基づき、自身を見つめて人間としての生き方について思考・判断ができる。</li> <li>・自らの考えを文章や口頭を通じて表現することができる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <p>[法華仏教コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日蓮聖人の宗教思想と社会的実践についての知識を身につけている。</li> </ul> <p>[日本仏教コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本仏教を基礎とした日本の思想・歴史・文化についての知識を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <p>[法華仏教コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法華仏教に関する資料を読みとることができる。</li> </ul> <p>[日本仏教コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本仏教に関する資料を読みとることができる。</li> </ul> <p>「仏教学科」  仏教学部仏教学科の課程を修め、下記的能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教に関する諸事象について、創意をもって学修することができる。</li> <li>・文化・社会の課題に積極的に関与し、自主的に問題解決に向けて取り組むことができる。</li> <li>・自らのあり方・生き方を正視し、向上させようと努力することができる。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <p>[思想・歴史コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教的なものの見方ができる。</li> <li>・歴史的なものの見方ができる。</li> <li>・文化・芸術を理解することができる。</li> </ul> <p>[文化・芸術コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の多様な文化を理解することができる。</li> <li>・芸術を理解し表現することができる。</li> <li>・仏教的・歴史的なものの見方ができる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教を文化・社会・自然と関係付けて理解する幅広い教養を身につけている。</li> </ul> <p>[思想・歴史コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思想・歴史を中心とする仏教学の基礎的専門知識を身につけている。</li> </ul> <p>[文化・芸術コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化・芸術を中心とする仏教学の基礎的専門知識を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <p>[思想・歴史コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教に関する資料を読みとることができる。</li> </ul> <p>[文化・芸術コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教に関する資料を読みとることができる。</li> </ul>		
---	--	--

・仏教文化・芸術に関する資料を読みとることができる。		
----------------------------	--	--

教育課程編成・実施の方針 (CP)	責任関係	備考
<p>仏教学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修意欲を喚起するために、授業内容を多様化します。</li> <li>・思考・判断・表現の能力を養うため、多様な授業形態を展開します。</li> <li>・多様な視点に基づく科目を体系的に配置します。</li> <li>・アクティブラーニングを念頭においた演習系科目を段階的に配置します。</li> </ul> <p>「宗学科」          仏教学部宗学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の生き方と現代社会の諸問題、歴史学的な探求とその解明方法、精神文化の諸相と宗教的価値観などについて広く深く学修し、コミュニケーション能力を高めて他者理解をはかり、社会的諸課題を解決する能力を養成し、宗学を総合的に体得することができるように編成します。</li> <li>・社会的視点を養成するため現地を見学する科目を設置します。</li> <li>・実践的な知識を学ぶための科目を設置します。</li> <li>・少人数でのコミュニケーションワークを取り入れた科目を設置します。</li> <li>・理解力、分析力、問題解決能力、発表能力を養成するために、ゼミナールおよび卒業論文を必修科目として設置します。</li> <li>・古文・漢文の基礎を復習し、法華仏教・日本仏教の基礎的な科目から発展的科目へと段階的に配置します。</li> </ul> <p>〔法華仏教コース〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日蓮聖人の生涯と思想、日蓮教団の思想と歴史の展開、法華経の思想と文化などを学修する科目を基礎的な科目から発展的科目へと理解が深まるよう段階的に配置します。</li> </ul> <p>〔日本仏教コース〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本仏教全般の思想・歴史や美術・文化の様相を体系的に学修する科目を配置します。</li> </ul> <p>「仏教学科」          仏教学部仏教学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的関心を掘り起こすものとしての多様な領域にわたる講義科目を設置します。</li> <li>・知的関心から体験的に学修するものとしての実習・研修系科目を設置します。</li> <li>・学生の学的関心や考えを表明し、意見交換を行う場としてのゼミ系科目を設置します。</li> <li>・社会的視点を養成するため現地を見学する科目を設置します。</li> <li>・思考力・判断力・表現力を養うため、講義・演習・実習・ゼミ等、多様な形態の科目を適切に配置します。</li> <li>・基礎・演習系、言語・スキル系、基礎・基幹系、言語系、思想・思想史系、各宗派教学・教団史系、文化史・文化財系、芸術実習系、宗教学系、現代宗教系、伝統文化系、日蓮教学系、他学部開講科目といった分類に基づく体系性を有するカリキュラムを編成します。</li> <li>・仏教学基礎演習、ゼミナール等の演習系科目を段階的に配置し、アクティブラーニングを念頭においた授業を展開します。</li> </ul>		

入学者受入れの方針 (AP)	責任関係	備考
<p>仏教学部では、学部の教育目標に共感し、仏教学部での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教の教え、仏教史、仏教文化・芸術などに深い関心をもっている者。</li> <li>・正義を尊ぶ高い倫理観を持ち、仏教を通じて自己形成と社会貢献を志している者。</li> <li>・学問に対する向上的意志を有している者。</li> </ul> <p>なお、仏教学部では、仏教学科(思想・歴史コース/文化・芸術コース)・宗学科(法華仏教コース/日本仏教コース)の入学者を学部として一律に選抜する方式をとっています。</p>		



・学力の三要素に即した求める人物像・

<主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

- ・ 仏教を中心とした思想・歴史・文化、法華経・日蓮聖人について学修する意欲を有している者。  
仏教学部入学志望者には、仏教学および宗学を積極的に学び、専門性を身につけていこうとする強い関心・意欲が何より求められます。特に思想や哲学、インドや中国を中心とした世界の歴史、日本の歴史、また日本を含むアジアの文化および文化遺産、仏像（鑑賞または制作）や寺院建築、あるいは日蓮聖人や日蓮宗の教義や歴史などへの関心と学びに対する意欲が求められます。
- ・ 仏教の教えに立脚して識見を深め、慈悲の心を実践し、広く社会に貢献する意欲を有している者。  
仏教学部での学びにおいて得られる知見は、卒業後の社会生活における様々な場で文化の相互理解や社会貢献に役立てることが出来ます。そのため、仏教学あるいは宗学の専門性をいかして、卒業後には積極的に社会に貢献したいという意欲を有することが求められます。
- ・ 世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働できる者。  
仏教学部における学びは、文化の相互理解や社会貢献に資する学問であるため、他者とのかかわりを通じた学びの経験は不可欠です。仏教学部では初年次教育においてディスカッションやグループワークなどによる学びの機会を設けています。また古典文献や古文書史料の読解や美術作品の鑑賞や制作を通して、資料に顕れている過去の人々との対話を実践し、様々な思想や文化に対して適正に理解することを志向します。さらには今を生きる者として、未来を見据えた上で、世代や国籍にとらわれることなく、他者と積極的に関わりながら協働する意欲が求められます。

<思考力・判断力・表現力>

- ・ 現代日本語の表現力を身につけている者。  
仏教学部における学びでは、教科書や様々な学術書、論文を読むことが不可欠です。また学びの課程では、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を他者へ適切に伝えることが求められます。そのため、高等学校の「国語」におけるこうした文章理解のための読解力、意見を伝えるための表現力が求められます。
- ・ 得た知識・技能を基に自ら思考を深め、問題解決に向けて適切に判断し、自らの考えを表現できる者。  
仏教学部における学びでは、古典文献や古文書史料の読解や、仏像や仏画の制作を通して得られる専門的な知識や技能に基づいて自己と他者および社会をみつめ直すことで、この世界に顕在化している様々な問題とその背景について考察する力が求められます。そのため、高等学校の「世界史」および「日本史」の知識の修得、あるいは普通教科の「芸術」や専門教科の「美術」の基本的な考え方を身につけていることが求められます。

<知識・技能>

- ・ 以下に示すような、仏教学および宗学の専門的知識の修得に必要な基礎学力となる現代日本語、古文、漢文の読解力を身につけている者、さらに日本および世界の歴史と生活・文化の地域的な特色に関して理解している者。

○高等学校等で修得すべき具体的内容

国語

- ・ 仏教学部における学びでは、日本語による教科書や様々な学術書、論文の他、古典文献や古文書史料の読解を行います。また学びの課程では、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を他者へ適切に伝えることが求められます。そのため、現代日本語、古文、漢文の読解力・表現力などの基礎力を有していることが求められます。

地理歴史

- ・ 過去から現代までの様々な地域における仏教の歴史や文化が、仏教学部における学びを深く理解するための重要な知識となります。そのため、日本および世界の歴史と生活・文化の地域的な特色を理解する能力が求められます。

公民

- ・ 仏教が一つの宗教として古代インドに誕生し、その後アジアを中心として社会制度と関りながら発展し、現代においては欧米世界にも広く浸透していることを理解する必要があります。そのため、社会を主体的に考察し人間としての生き方を学び、人間と社会に関わる事からについて理解する能力が求められます。

外国語

- ・ 仏教学部における学びでは、外国語文献を読む機会も多くあります。また、現代社会における仏教への関心はアジアのみならず欧米世界にも広まっています。そのため、仏教を中心とした歴史や文化に関するより多くの知識を獲得するための英語のリーディング、リスニング、ライティング、ス

<p>ピーキングについての基本的能力、および獲得した知識を社会に還元するための国際的な視野が求められます。</p> <p>芸術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教学部の学びでは、言語資料だけではなく、彫刻や絵画、寺院建築等の非言語資料を学びの対象とする機会もあります。そのため、美術、工芸、書道などの芸術を鑑賞し理解する感受性と創造力が求められます。</li> </ul> <p>入学前に求められる学習活動、学習歴</p> <p>上記のように、仏教学部の学びでは、様々な領域の基礎的な学力を身につけていることが必要です。</p> <p>そこでまずは、高等学校等での正課の学びにしっかりと取り組み、「国語」に関する基本的な能力を身につけることが何より重要です。さらに世界や日本の「歴史」または「芸術」に積極的に関心を持ち、それらと仏教をはじめとした宗教文化との関りなどについて理解を深めておくことも、仏教学部での学びのために役立ちます。</p> <p>また、学業だけでなく、身の回りの人とコミュニケーションを取る、色々な本を読み、この世界に在化している様々な社会問題に関心に向けるなど、日ごろから自己や他者、また社会について自分なりに考えを深めることも重要です。こうした取り組みは、入学後の学びを生きた知識として定着させることにつながります。</p>		
---	--	--

<文学部>

卒業認定・学位授与の方針 (DP)	責任関係	備考
<p>文学部は、各学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「モラリスト×エキスパート」として、自らの行動が社会に及ぼす影響を考えることができる。</li> <li>・人間と社会の関わりについて関心をもっている。</li> <li>・自国や他国の文化を支え、理解しようとする姿勢を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的・批判的な思考力を身につけている。</li> <li>・物事を多面的に分析・判断する能力を身につけている。</li> <li>・専門領域を超えて横断的に現代の人間や社会が抱える課題を考察することができる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科・コースの専門分野に関する専門的知識を身につけている。</li> <li>・専門性にとらわれない幅広い教養を身につけている。</li> <li>・異文化を深く理解する能力を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル時代に対応出来る英語力を身につけている。</li> <li>・他者とコミュニケーションする能力を身につけている。</li> <li>・自ら課題を発見・解決する能力を身につけている。</li> </ul> <p>「哲学科」</p> <p>文学部哲学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに論じられてきた哲学的な問題に関心をもっている。</li> <li>・現代社会が直面している哲学的な問題に関心をもっている。</li> <li>・日常において自明視されていることを疑問視しようとする態度を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見およびその根拠を他者にわかりやすく説明できる。</li> <li>・他者の意見及びその根拠を批判的に検討できる。</li> <li>・哲学的思考を、現代社会が直面している問題の解決に応用できる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学史に関する専門的知識を身につけている。</li> <li>・周辺諸領域に関する幅広い教養を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを読解する力を身につけている。</li> <li>・他者と対話する能力を身につけている。</li> <li>・自ら課題を発見・解決する能力を身につけている。</li> </ul>		

「史学科」

文学部史学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。

<関心・意欲・態度>

- ・幅広い教養を身につけるとともに、歴史的な問題に関心をもっている。
- ・他分野との高いコミュニケーション能力を備えている。
- ・身につけた専門の知識・能力を積極的に社会還元する態度を身につけている。

<思考・判断・表現>

- ・史実を再構成する論理的思考能力を身につけている。
- ・さまざまな史資料を駆使して、多面的に分析・判断する能力を身につけている。
- ・専門領域を超えて横断的に過去から現在にいたるまでの歴史的な問題について、総合的に考察できる。

<知識・理解>

- ・これまでの歴史学の研究成果を理解して、専門的な知識を身につけている。
- ・歴史学に関わる他分野に関する幅広い教養を身につけている。

<技能>

- ・史資料を解釈・分析する能力を身につけている。
- ・自身の問題関心や研究成果について、他者に対して説明する能力を身につけている。
- ・自らの課題に関する可能な限り多くの史資料を見付け出す能力を身につけている。

「社会学科」

文学部社会学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。

<関心・意欲・態度>

- ・現代社会の構造を明らかにしたいという関心と意欲をもっている。
- ・現代の社会問題への関心を持ち、その解明や解決への意欲をもっている。
- ・異質な文化や他者への関心やコミュニケーションの意欲をもっている。

<思考・判断・表現>

- ・自分の意見やその根拠を他者にわかりやすく説明できる。
- ・他者の意見の理解に基づくコミュニケーション能力を身につけている。
- ・社会学的知識に基づく社会学的な想像力をもっている。

<知識・理解>

- ・基礎、専門を含めた社会学的知識を習得している。
- ・社会調査に関する基礎、専門を含めた知識を習得している。

<技能>

- ・テキストの解読や他者とのコミュニケーション・スキルを獲得している。
- ・社会調査の知識に基づく技法を習得している。
- ・卒論やレポートなど、論文を書く技法や能力を獲得している。

「文学科（日本語日本文学専攻コース）」

文学部文学科日本語日本文学専攻コースの課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。

<関心・意欲・態度>

- ・これまでに論じられてきた日本文学あるいは日本語の諸問題に関心をもっている。
- ・日本文学あるいは日本語の現在と未来におけるあり方に興味や関心をもっている。
- ・日本文学や日本語の知識に基づいて、適切な表現をつねに心がけている。

<思考・判断・表現>

- ・自分が直面している諸問題を認識し、思考しながら解決する力を身につけている。
- ・相手の意見およびその根拠を適切に判断できる。
- ・自分の意見およびその根拠を相手にわかりやすく説明できる。

<知識・理解>

- ・日本文学および日本語に関する専門的な知識を身につけている。
- ・周辺諸領域に関する幅広い知識を身につけている。

<技能>

- ・古典文学や近現代文学を読解する力を身につけている。
- ・他者と対話するのに必要かつ十分な日本語能力を身につけている。
- ・自ら課題を見つけ、それを解決することができる能力を身につけている。

<p>「文学部（英語英米文学専攻コース）」          文学部文学部英語英米文学専攻コースの課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会で活躍するための英語コミュニケーション能力を高めようという意欲をもっている。</li> <li>・英米文学、英語学、英語圏の文化に興味と関心をもっている。</li> <li>・自らの文化と他者の文化に対する理解を深めようという意欲をもっている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見およびその根拠を他者にわかりやすく説明できる。</li> <li>・他者の意見およびその根拠を批判的に検討できる。</li> <li>・グローバルな視野に立って社会・文化について考察し、複眼的に物事をとらえて判断できる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コミュニケーション能力の基盤となる、英語についての基礎的・発展的知識を身につけている。</li> <li>・英米文学、英語学、英語圏の文化に関する専門的知識を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の国際社会で役立つような英語力とコミュニケーション能力を身につけている。</li> <li>・英語テキストを的確に読解する力を身につけている。</li> <li>・自ら課題を発見・解決する能力を身につけている。</li> </ul>		
--	--	--

教育課程編成・実施の方針（CP）	責任関係	備考
<p>文学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と社会の関わり、自らの文化や異文化を深く理解する能力を養成するために、教養科目・共通専門科目を設置します。</li> <li>・社会人としての常識やモラルを養成するために、文学部独自の基礎科目を設置します。</li> <li>・専門的知識を身につけるために、学科専門科目を設置します。</li> <li>・専門にとらわれない幅広い教養を身につけるために、共通専門科目を設置します。</li> <li>・グローバル時代に対応出来る英語力の養成のために、「基礎英語」「実践英語」を設置します。</li> <li>・コミュニケーション能力の養成のために、演習科目を設置します。</li> <li>・課題発見・解決能力の養成のために、卒業論文科目を設置します。</li> </ul> <p>「哲学科」          文学部哲学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学史に関する専門的な知識や過去の哲学的問題に対する関心、自明視されていることを疑問視しようとする態度を身につけるために、各年代の哲学史に関する科目を設置します。</li> <li>・周辺諸領域に関する幅広い教養や現代社会の問題に対する関心、自明視されていることを疑問視しようとする態度を身につけるために、周辺諸領域との接点を重視した科目を設置します。</li> <li>・自他の意見およびその根拠の妥当性を評価する能力や対話能力、課題発見能力を身につけるため、基礎演習、哲学演習、上級演習を設置します。</li> <li>・テキストの読解力を養うため原典講読科目を設置します。</li> </ul> <p>「史学科」          文学部史学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な問題に対する関心やこれまでの研究に対して疑問視する姿勢、専門的な歴史の知識を身につけるために、各年代、地域における歴史に関する科目を設置します。</li> <li>・歴史的な問題に対する関心や周辺諸領域の教養を身につけるために、周辺諸領域との接点を重視した科目を設置します。</li> <li>・自他の意見およびその根拠の妥当性を評価する能力や対話能力、課題発見能力を身につけるため、演習科目を基礎演習から段階的に設置します。</li> </ul>		

<p>・史資料読解能力を身につけるために、各分野の研究入門科目、史料講読科目を設置します。</p> <p>「社会学科」          文学部社会学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学の基礎、専門知識を習得し、それを現代社会の理解に結びつける社会学的想像力を育成する科目を体系的に編成します。</li> <li>・社会学への関心や姿勢を身につけ、プレゼンテーションするための基礎的な講義科目を設置します。</li> <li>・社会問題への関心を育成し、専門的な思考に導くための基礎、専門の演習科目を設置します。</li> <li>・社会調査を実践するために必要な知識・技能を身につけるための実習関連科目を体系的に設置します。</li> </ul> <p>「文学科（日本語日本文学専攻コース）」          文学部文学科日本語日本文学専攻コースは、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代から現代に至る日本文学と日本語に関する諸問題にふれるとともに、それぞれの時代の表現を理解し、それを現代と未来に生かそうとする意欲や態度を養うために、各時代、各分野の日本文学と日本語に関する科目を体系的に編成します。</li> <li>・さまざまな文学やことばに対して積極的に関心を持つようとする意欲や態度および広い知識を身につけるために、周辺領域との接点を重視した科目を設置します。</li> <li>・思考力や判断力を養成するために、演習科目を基礎演習から段階的に配置します。</li> <li>・表現力や思考力を養成するために、詩や短歌・俳句の創作を行う科目を設置します。</li> <li>・日本文学・日本語に関する通史的な知識を身につけるために、各時代の文学史・日本語史に関する科目を設置します。</li> <li>・日本列島における人や時代を広く理解するために、各時代の文学作品に関する講読と特殊講義を設置します。</li> <li>・日本文学・日本語の読解力・理解力を身につけるために、古典文学や近代文学に関する講読科目を設置します。</li> <li>・専門的な知識を習得する上で必要な基礎能力（技能・方法）を身につけるために、ビブリオグラフィ・リーディングなどの基礎的演習科目を設置します。</li> <li>・課題発見とそれを解決する能力を身につけるために、3・4年生一貫的な演習科目を設置します。</li> </ul> <p>「文学科（英語英米文学専攻コース）」          文学部文学科英語英米文学専攻コースは、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化の時代に対応できる実践的な英語コミュニケーション能力の涵養を図るための科目を設置します。</li> <li>・英文学、米文学、英語学に関する科目を体系的・段階的に編成します。</li> <li>・英語圏の多様な言語研究および文化研究に関する科目を併設し、幅広い学びを可能にするように配慮した科目を配置します。</li> <li>・英語の4技能の力、英語コミュニケーション能力を養成するため、段階的に科目を編成します。</li> <li>・英米文学、英語学、英語圏の文化について、学生が自らの関心に沿って学習できるような柔軟性のあるカリキュラムを編成します。</li> </ul>		
--	--	--

入学受入れの方針 (AP)	責任関係	備考
<p>文学部では、学部教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の専門とする諸領域について幅広い興味と関心を持ち、その問題解決のために、積極的に学ぼうとする意欲をもっている者。</li> </ul> <p>「哲学科」          文学部哲学科では、学部教育目標に共感し、哲学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。</p>		

<p>・学力の三要素に即した求める人物像・</p> <p>&lt;主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学の諸領域について幅広い興味と関心を持ち、積極的に学び探求しようとする意欲をもっている者。 哲学科への入学者を志望する者には、哲学を積極的に学び、専門性を身につけていこうとする強い関心・意欲が何より求められます。</li> <li>・自ら問題を発見し、考え、他人と積極的にコミュニケーションを図る意欲をもっている者。 哲学的に思考するためには、様々な場で当たり前と思われていることを疑い、自ら問いを発見する意欲が必要です。また、哲学は古来より対話を、問いを深めるための重要な方法としてきたため、その問いを周囲の者と共有し、議論する姿勢が求められます。</li> <li>・世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働することができる者。 哲学は、地域や世代に捕われない根本的な問いを扱うため、年齢や出自に捕らわれない学びの姿勢が必要です。そのため、多様な者と対等に議論しようとする姿勢が求められます。</li> </ul> <p>&lt;思考力・判断力・表現力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的思考力を身につけている者。 哲学の学修では、様々な哲学書、論文、解説書を読み批判的に思考することが不可欠です。そのためには、著者の思想を理解する論理的な思考力が必要となります。</li> <li>・問題を理解し発見する能力を身につけている者。 哲学の学びでは、これまでに問われてきた問いを踏まえて考えることが必要であるため、その問いの真意を理解する能力が必要となります。また、現代になって現れてきた諸問題を解決するためには、問題が何であるかを発見する能力が必要です。</li> <li>・自分の意見を他者にわかりやすく説明することができる者。 哲学では、自分で考えたことを他者に説明し、何が問題であり、自分がどのように考えているのかを理解してもらうことが重要です。そのため、自分の考えを他者にわかりやすく説明する技術や姿勢が必要です。</li> <li>・得た知識・技能を基に自ら思考を深め、問題解決ができる者。 哲学では、これまでの問われてきた問いをただ理解するだけではなく、その問いに自分なりの仕方 で応答することが重要です。そのため、自ら思考し、問題を解決する姿勢が必要です。</li> </ul> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校で開講されている科目に対する基礎的な知識や理解力を身につけている者。 哲学の問いの対象はあらゆる事象に及ぶため、広く一般的な知識を得るだけでなく、それらを理解する力が必要となります。</li> <li>・日本語および外国語の読解力および文章力を身につけている者。 哲学の学びでは、過去に書かれたテキストを読解する必要があります。そのためには、日本語および外国語を読み理解する力が必要です。また、自分が考えたことを、他者に正確に伝えるためには、自分の考えを適切に表現する文章力も必要といえます。</li> <li>・専門分野の学修に耐えうる基礎的な知識を身につけている者。 哲学は西洋で生まれた学問であるため、西洋の歴史や社会についての一般的な知識が必要となります。</li> </ul> <p>○高等学校等で修得すべき具体的内容</p> <p>外国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋の哲学を理解するためには、原語でそのテキストを理解する能力が必要です。具体的には、英語のリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングについての基本的能力を身につけておく必要があります。</li> </ul> <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の哲学、あるいは西洋の哲学の翻訳された文章を理解するためには、書かれた著者の思想を論理的に読み解く能力が必要です。日本語で書かれた哲学書、解説書に目を通すなどして、基本的知識を得ると共に、読解力を身につけておく必要があります。</li> </ul>		
--	--	--

地理歴史

・歴史や社会の問題を哲学的に考察するためには、社会全体を広い視野で捉える能力や基本的知識が必要です。

数学・理科

・近代哲学が形成される過程では、自然科学における数学や力学・天文学の発展が決定的な重要性をもっていました。そのため、近代自然科学についての基本的な知識と、それを理解する能力が必要です。

-入学前に求められる学習活動、学習歴-

上記のように、哲学科の学びでは、様々な領域の基礎的な学力を身につけていることが必要です。

そこでまずは、高等学校等での正課の学びにしっかりと取り組み、基本的な能力を身につけることが何より重要です。こうした過程で、英語能力に関する資格などを取得することも、学習の達成を確認する上で役立ちます。

また、学業だけでなく、身の回りの人とコミュニケーションを取る、様々な社会問題に触れる、色々な本を読むなどの活動を通して、日ごろから様々な物事について自分なりに考えを深めることも重要です。こうした取り組みは、入学後の学びを生きた知識として定着させることにつながります。

「史学科」

文学部史学科では、学部学科の教育目標に共感し、史学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。

-学力の三要素に即した求める人物像-

<主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

・他者と対話しようとする姿勢を身につけている者。

歴史学に限らず、学修の場では、他者の考えに真摯に向き合い、内容を理解し、批判・検討する姿勢が大切です。その一方で、自分の考えを他者にわかりやすく伝え、理解してもらおうとする努力も必要です。ディスカッションやグループワーク、実習などの機会において、他者と積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が求められます。

・歴史学に対して関心や意欲をもっている者。

史学科への入学を志望する者には、歴史学を積極的に学び、専門性を身につけていこうとする強い関心と意欲が何より求められます。様々な異なる過去の捉え方を比較し、史料から独自の考え方を探り出そうとする意欲であり、ただ歴史が好きだけではなく、過去を知るために自ら足を使って史料を探し、遺跡を歩き、自らの目で歴史を捉えて考えようとする姿勢です。

・世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働することができる者。

学修の場においては、世代や国籍の違いを越え、学修者が相互に協力しながら他者と協働して学修しようとする姿勢が求められます。ディスカッションやグループワークなどを通して、共通の目標や課題の達成に向け、積極的に発言し、参加することが必要とされます。

<思考力・判断力・表現力>

・論理的思考能力を身につけている者。

歴史学の学修では、史料に書かれていることを的確に分析し、読み解くことが求められます。また、学術書や論文に書かれている内容を正確に理解し、筆者の考え方を論理的・批判的に読むことも必要とされます。

・問題を発見する能力を身につけている者。

歴史学の学修では、史料や学術書や論文を読み進めていくなかで、書かれている内容を正確に読み取ることはもちろんのこと、事実として確認できることなのか、議論の展開に矛盾はないのかなど、先入観や常識にとらわれることなく、様々な疑問や問題を見つけることが求められます。

・自分の意見を他者にわかりやすく説明することができる者。

歴史学の学修では、プレゼンテーションをしたり、レポートや論文として文章にまとめたりすることで、自分の意見や調査内容について、他者へわかりやすく伝え、理解してもらわなければなりません。そのために、発表手段や配布資料を工夫したり、文章力・表現力を向上させたりすることが求められます。

・得た知識・技能をもとに自ら思考を深め、問題解決に向けて適切に判断し、自らの考えを表現することができる者。

歴史学の学修では、史料から読み取ったことや、学術書や論文を読んで得られた知識などをもとに、問題点を見つけ、自分で考え、問題解決に向けて適切な調査を進めていく必要があります。そのため、図書館の活用はもちろんのこと、博物館などの研究施設の利用や、実際に史跡を訪れてフィールドワークを行うなどのことが求められます。

#### <知識・技能>

以下に示すような、歴史学の専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。

#### ○高等学校等で修得すべき具体的内容

##### 国語

・歴史学の学修では、史料を読解し、様々な学術書や論文を読むことが不可欠です。また、学びの過程では、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を他者にわかりやすく伝える必要があります。そのため、こうした史料や文章を理解するために、現代文、古文、漢文の内容を的確に理解しうる読解力と論理的思考力、そして他者に意見を明確に伝えられる日本語の表現力・文章力や、コミュニケーション能力が求められます。

##### 地理歴史・公民

・過去から現代まで、人のあらゆる営みが歴史学を理解するための重要な知識となります。一方で、歴史学が人と社会とのなかでどのように位置づくのかを理解することも必要です。そのため、特定の時代、地域、テーマに偏らない基礎的知識と幅広い洞察力を身につけ、日本を含む諸外国の歴史や地理、社会、思想、文化などを多面的・多角的に捉えることのできる能力が求められます。専門分野の学修に耐えうる基礎的な知識の修得がとても大切です。

##### 外国語

・歴史学の学修では、とくに外国史を学修するさいには、外国語の文献を読む機会も多くあります。そのため、歴史学に関するより多くの知識を獲得するための基本的な外国語の運用能力（具体的には、英語などのリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングについての基本的能力）が求められます。

#### -入学前に求められる学習活動、学習歴-

上記のように、史学科の学びでは、様々な領域の基礎的な学力を身につけていることが必要です。まずは高等学校での正課の学びにしっかりと取り組み、基本的な能力を身につけることが何よりも重要なことです。こうした過程で、英語能力に関する資格などを取得することも、学習の達成を確認する上で役立つでしょう。

また、それぞれの興味関心にもとづいて、歴史に関する本をたくさん読んでおくことがよいと思います。そして、いろいろな史跡や博物館などに実際に足を運んで見学してこくことも、とても大切な学習機会です。これからの学習に役立つ貴重な経験となるでしょう。

さらに、学業だけではなく、身の回りの人とコミュニケーションをとる、様々な社会問題に関心を持つ、いろいろなジャンルの本を読むなどの活動を通して、日ごろから人の心について自分なりに考えを深め、社会と関わりをもつことも重要です。こうした取り組みは、入学後の学びを生きた知識として定着させることにつながります。

#### 「社会学科」

文学部社会学科では、学部学科の教育目標に共感し、社会学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。

#### -学力の三要素に即した求める人物像-

##### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

・他者とコミュニケーションをする姿勢や能力をもっている者。

社会学科では、グループワークや学生同士での議論が求められます。そのためにも、積極的に他者とのコミュニケーションをとりとうとする姿勢が求められます。

・現代社会に関心を持ち、それを解明しようとする主体性をもっている者。

社会学は現代社会の多様な事象・問題を解明していく学問です。そのため、自らの問題関心に基づき、解明しようとする主体性が求められます。



<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる文化や他者に感心を持ち、理解しようとする姿勢や能力をもっている者。 社会学では、自分をとりまく世界・社会にとらわれずに異なる文化や他者に対して、先入観や偏見を持たずに理解する姿勢が求められます。</li> <li>・世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働することができる者。 社会学科では、実習や演習を通して、年齢差や世代、そして性差や国籍などにとらわれずに積極的に働きかけあい、グループワークや共同作業ができることが求められます。</li> </ul> <p>&lt;思考力・判断力・表現力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的思考力を身につけている者。 社会学科への入学を志望する方には、人と人との関係や社会的な出来事、社会制度や社会のしくみについて、専門用語を学び、それを身につけた上で分析する論理的思考力が求められます。</li> <li>・現代社会の問題を発見、解明する能力を身につけている者。 社会学とは、日常のなかから、また自分が体験している社会から問いを発見し、それを「社会」に結びつけて解を得ようとする学問です。そのためにも、今いる自分の社会・世界を意識し、現代社会に関連づけて考察する主体性と、それを解明しようとする力を身につけることが求められます。</li> <li>・自分の意見を他者にわかりやすく説明することができる者。 演習科目等においては学生同士で議論することが基本となるので、自分の意見や考えを他者に対して、わかりやすい言葉、そして書き言葉でも説明できることが求められます。</li> <li>・得た知識・技能を基に自ら思考を深め、問題解決に向けて適切に判断し、自らの考えを表現することができる者。 社会学科では専門書や論文を読むことが求められます。その読解力を前提に、現代社会の多様な事象・現象に対する自らの問いを、分析を踏まえた解決にむけて、表現することが求められます。</li> </ul> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <p>以下に示すような、社会学の専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。</p> <p>○高等学校等で修得すべき具体的内容</p> <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学の学修では、さまざまな学術書、論文を読むことが不可欠です。また学びの課程では、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を他者へ適切に伝えることが求められます。そのため、こうした文章を理解する力、意見を伝えるための表現力が求められます。</li> </ul> <p>地理歴史・公民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の多様なかつ複雑な現象や事象について考えるためには、過去に遡ってその歴史的文化的な成り立ちを理解することが必要です。</li> </ul> <p>外国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学において、外国語（英語）文献を読む機会もあります。また新聞やニュースなども外国語（英語）で理解する必要もあります。そのためにも、基本的な英語力（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）および獲得した知識を社会に還元するための国際的な視野が求められます。</li> </ul> <p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学では社会調査に関わる統計学等の科目を複数学びますが、その際、基礎的な数学を理解する力が求められます。</li> </ul> <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートや論文の執筆、データの分析などを行うためには IT 機器の活用は欠かせません。そのため、調査等におけるデータ処理を円滑に行うためのパソコンの基本的な技能が求められます。</li> </ul> <p>—入学前に求められる学習活動、学習歴—</p> <p>上記のように社会学科の学びでは、様々な領域の基礎的な学力を身につけていることが必要です。そこでまずは、高等学校での正課の学びにしっかりと取り組み、基本的な能力を身につけることが何より重要です。こうした過程で、英語能力に関する資格などを取得することも、学習の達成を確認する上で役立ちます。</p>		
---	--	--

また学業だけでなく、身の回りの人とコミュニケーションを取る、さまざまな社会問題に触れる、色々な本を読むなどの活動を通して、日頃から「当たり前の日常や社会」について自分なりに考えを深めることも重要です、こうした取り組みは、入学後の学びを生きた知識として定着させることにつながります。

「文学科（日本語日本文学専攻コース）」

文学部文学科日本語日本文学専攻コースでは、学部学科の教育目標に共感し、日本語日本文学専攻コースでの学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。

-学力の三要素に即した求める人物像-

<主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

- ・日本文学や日本語に対して強い関心や意欲をもっている者。  
日本語日本文学専攻コースへの入学を志望する方には、日本語・日本文学を積極的に学び、専門性を身につけていこうとする強い関心・意欲が何より求められます。
- ・教員や図書館司書・学芸員などの目指す将来像をはっきりともっている者。  
中学校国語科、高等学校国語科、高等学校芸術科書道の教員免許取得を目指し、将来中学校や高等学校で教員として生徒の指導に当たりたいと強く思っている人、図書館司書の資格を取得し、読書指導の専門家として働きたいと思っている人、学芸員の資格を取得し、博物館などで文化財の展示や調査研究に携わりたいと思っている人の入学を歓迎します。
- ・周辺諸領域に対する広い関心をもっている者。  
日本語や日本文学は、日本国内のみで発展したわけではありません。古代においては中国や朝鮮半島から強い影響を受けて、それを日本語や日本文学の中に取り入れてきました。また琉球（沖縄）やアイヌにも独特の文化があり、本土とは異なった独自の文学を持っています。いわゆる「本土」の言語や文学だけでなく、周辺諸領域における言語や文学に興味を持っている方の入学を歓迎します。
- ・自分の考えを、的確に相手に伝えることができる表現力を身につけている者。  
日本語日本文学専攻コースでは、もちろん日本語や日本文学について学びます。これはすなわち言葉について学修するということです。高校生の時から言葉について興味を持ち、それを的確に使って様々なことを表現しようとする資質が大切です。
- ・世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働することができる者。  
言葉は他人とのコミュニケーションを行うための大切なツールです。その言葉をとおして、同世代の人たちとはもちろん、世代を超えた人たちとの対話を行います。またグローバルな時代において外国の人との対話も重要な時代になりました。そのような言葉の運用能力を身につけるために、他者と一緒になって学修しようとする意欲を持つ人の入学を歓迎します。

<思考力・判断力・表現力>

- ・論理的にものごとを考えようとする力を身につけている者。  
「学問」を行うためには、自分の考えを筋道を立てて分かりやすく説明していかなければなりません。そのためには、様々な事柄を論理的に結びつけて考えていく能力が必要となります。
- ・課題を発見し、それについて考えようとする力をもっている者。  
「学術研究」は、自分で問題を見つけて自分で解決していくことです。普段使っている日本語や普段読んでいる文学作品の中から、不思議に思うこと・疑問に思うことを見つけ出し、それを自身で解決していこうとする発想力や問題を解決していこうとする強い意志がとても大切です。
- ・得た知識・技能を基に自ら思考を深め、問題解決に向けて適切に判断し、自らの考えを表現することができる者。  
日本語・日本文学の研究では、普段使っている言葉や文学作品の中に用いられている言葉や表現について、様々な分析を加えていくこととなります。日本語・日本文学についての基礎的な知識を身につけ、文章を読んで深く理解し、鑑賞する能力が必要です。

<知識・技能>

- ・高校で開講されている科目に対する基礎的な知識や理解力を身につけている者。  
日本語日本文学専攻コースは文科系の学問分野に位置づけられます。しかしながら言葉や文学はあらゆる事象に関わります。高等学校で学習する文科系の学習内容のみならず、理科系の学習内容を身につけておくことも、とても重要です。
- ・日本語に対して、知識をもち、理解力に優れている者。  
日常生活の中で、使っている言葉に対して興味・関心を持ち、言葉遣いを意識していることは、日本語日本文学を学修する上で重要な資質となります。
- ・文学作品を人よりたくさん読んでいると自負している者。  
高等学校3年間で使用した国語科教科書の中に収められている古典・近現代文学作品をすべて読みかえし、その中で特に興味を抱いた作品の全文や、同じ作家の別の作品を図書館か書店で入手し、読んでみるというような意欲と探究心・知識を持つことが求められます。

○高等学校等で修得すべき具体的内容

国語

- ・高等学校の国語科は、日本語日本文学専攻コースで学修する上での基礎となります。言葉による見方・考え方を意識し、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力が大切です。そのために、話し言葉と書き言葉の特徴や役割・表現の特色を踏まえて、正確で分かりやすい表現や言葉遣いができることが必要です。  
また文章の種類を踏まえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確に把握して、作品に表れているものの見方・感じ方・考え方を捉え、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえて作品の解釈を深める能力が必要です。  
さらに古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解しておくことが求められます。

地理歴史・公民

- ・言語や文学は、人間のあらゆる営みに関わります。そのため、地理や歴史、現代日本の政治や経済に関わる事象の意味や意義について理解し、その特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりすることが求められます。

数学

- ・文科系の学問領域においても、数学的思考力は実はとても大切です。数学的思考力を身につけるために、数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、さまざまなことがらを論理的に考察する力、ものごとの本質や他のことがらとの関係を認識し統合的・発展的に考察する力、それを簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うことが求められます。

理科

- ・文学をはじめ言葉で表現されるもので取り扱う題材は、人間世界のあらゆることがらに及びます。自然の事物・現象についての理解を深め、それらに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身につけておくことが求められます。

芸術

- ・芸術は文学と密接に関わる分野です。したがって、芸術に関する各科目の特質を十分に理解するとともに、自分自身の意図に基づいて表現するための技能を身につけることが大切です。そして、創造的な表現を工夫したり、芸術的な作品を深く味わったりすることができる能力を養うことが求められます。

外国語

- ・外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動とこれらを結び付けた総合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解し適切に表現し伝えるコミュニケーション能力が求められます。そのために、外国語の音声や語彙・表現・文法・言語の働きなどを理解し、外国語で情報や考えなどの概要や詳細、話し手や書き手の意図などを理解して適切に表現し伝える力を養い、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることが必要です。

情報

- ・レポートや論文の執筆、資料の検索やデータの分析などを行うためには、情報機器の活用は欠かせません。そのため、コンピュータに関する基本的知識、ワープロソフト・表計算ソフトの基本的な使い方、インターネットやデータベースの検索方法など、コンピュータを使用するための基礎的スキルが必要となります。

ー入学前に求められる学習活動、学習歴ー

上記のように、日本語日本文学専攻コースでの学修は、様々な領域の基礎的な学力を身につけることが必要です。

そこでまずは、高等学校等での正課の学びにしっかりと取り組み、基本的な能力を身につけることが何より重要です。こうした過程で、漢字検定や英語能力に関する資格などを取得することも、学修の達成を確認する上で役立ちます。

また、学業だけでなく、身の回りの人とコミュニケーションを取る、様々な社会問題に触れるなどの活動を通して、日ごろから言語や文学について自分なりに考えを深めることも重要です。こうした取り組みは、入学後の学びを生きた知識として定着させることにつながります。

「文学科（英語英米文学専攻コース）」

文学部文学科英語英米文学専攻コースでは、学部学科の教育目標に共感し、英語英米文学専攻コースでの学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。

ー学力の三要素に即した求める人物像ー

＜主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度＞

- ・英語によるコミュニケーションを積極的に行う姿勢を身につけている者。  
英語英米文学専攻コースでは、卒業後に社会で活用できる英語コミュニケーション能力の修得を目指しているため、積極性をもって英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲が求められます。
- ・イギリスやアメリカをはじめとした英語圏の文学・文化、英語の文法やその歴史を学ぶ、英語学に対して興味・関心をもっている者。  
英語英米文学専攻コースでは、英語圏の文学・文化、言葉の歴史や構造などの英語学も広く深く学ぶため、さまざまな視点からそれらを積極的・意欲的に学ぼうとする姿勢が求められます。
- ・世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働することができる者。  
英語英米文学専攻コースの授業には、自らの意見や価値観とは異なる他者とのディスカッションやグループワーク、ロールプレイなどによる学修の機会が多く存在します。そのため、このような場面をとおして、他者への理解力と受容力を持ち、他者と協働して学修しようとする意欲が求められます。

＜思考力・判断力・表現力＞

- ・論理的思考力を身につけている者。  
英語英米文学専攻コースでの学修には、英語圏の文学作品やエッセイをはじめとした様々な英語文献・学術書・論文などの講読・読解をとおして、論理的に考えることが求められます。また、4年次の卒業論文執筆の際には、論理的で整合性のある論述が不可欠です。そのため、文章で自らの意見を伝えるための論理的思考力が求められます。
- ・問題を発見する能力を身につけている者。  
卒業論文執筆時には、自らテーマを決めて問題提起をすることが必要不可欠です。そのため、日ごろから様々なことに好奇心を持って自ら課題を見つけ出ししていく力が求められます。
- ・自分の意見を他者にわかりやすく説明することができる者。  
文献読解やプレゼンテーション、ディスカッションでは、自らの意見を他者へ適切に伝えることが求められます。そのため、高等学校の「国語」における日本語文章および「英語」における英語文章の読解力と、自らの意見を伝えるための表現力が求められます。
- ・得た知識や技能を基に自ら思考を深め、問題解決に向けて適切に判断し、自らの考えを表現することができる者。  
英語圏の文学や文化、英語の文法やその歴史などの学修をとおして、そこに潜む問題を読み取って考え、自らの意見を導き出すことが求められます。そのためには、積極的に物事を追究する意欲や姿勢、日本語および英語で自らの意見を伝える力を身につけていることが必要になります。

<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校で開講されている科目についての基礎的な知識や理解力を身につけている者。 英語英米文学専攻コースは、文科系の学問分野に位置づけられます。しかしながら言葉や文学はあらゆる事象に関わります。高等学校で学習する文科系の学習内容のみならず、理科系の学習内容を身につけておくことも、とても重要です。</li> <li>・日本語および外国語（特に英語）の読解力および文章力を身につけている者。 英語圏の文学や文化、英語学に関する日本語および英語の文献をとおして学んだこと、およびそこから考え導き出した自らの意見を文章で正確に伝えるために、論理的な文章表現力を身につけてください。</li> <li>・専門分野を学修するための基礎的な知識を身につけている者。 英語英米文学専攻コースの学修において、イギリスおよびアメリカを中心とした基本的な文学作品、映画・音楽・食などの文化、英語の音声・語・文の構造に関する基礎的な知識を習得してください。</li> </ul> <p>○高等学校等で修得すべき具体的内容</p> <p>外国語</p> <p>英語英米文学専攻コースでは、英語文献を読む、英語で文章を書いたり自らの意見を発表したりする、イギリスやアメリカをはじめとした英語圏の文学と文化を学ぶといった機会が多くあります。そのため、中学校や高等学校等で学んだ内容を適切に理解できる基礎的な英語の語彙力と英文法の知識、英語のリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの基本的な能力、および英語圏の文学や文化の基本的な知識を身につけてください。</p> <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献講読やプレゼンテーション、ディスカッションをとおして、自らの意見を他者へ適切に伝えるための表現力・文章力・コミュニケーション能力が必要です。そのため、中学校や高等学校等で学んだ現代文や古文、漢文などの内容を適切に理解でき伝えられる日本語の読解力と論理的思考力、表現力を修得してください。</li> </ul> <p>地理歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語圏の文学や文化、英語学を深く理解するためには、イギリスやアメリカを中心とした過去から現代までの人々の歴史や歩み、営みの学修も必要です。また、日本の歴史や文化と比較することも、それらを理解するための重要な要素になります。そのため、中学校や高等学校等で学んだ日本およびイギリスやアメリカをはじめとした諸外国の歴史や地理、社会、思想、文化についての知識を身につけてください。</li> </ul> <p>ー入学前に求められる学習活動、学習歴ー</p> <p>上記のように、英語英米文学専攻コースの学びでは、英語におけるコミュニケーションや文法、読解などの基礎的な学力、異文化への興味・関心、英語圏の歴史の基本的な概要を身につけていることが必要です。</p> <p>そこでまずは、高等学校での正課の学びにしっかりと取り組み、基本的な能力を身につけること、積極的な異文化学習や交流が重要です。さらには、英語能力に関する資格などの取得も、学習の達成を確認するうえで役立ちます。</p> <p>また、学業だけでなく、身の回りの人々とコミュニケーションを取る、多様な社会問題・音楽・映画などの文化に触れる、英語圏文学をはじめとした様々な本を読むなどの活動をとおして、日ごろから他者の考えや心、異文化について、意欲的かつ積極的に自分なりに考えを深めることも重要です。こうした取り組みは、入学後の学びを生きた知識として定着させることにつながります。</p>		
--	--	--

<経済学部>		
<p style="text-align: center;"><b>卒業認定・学位授与の方針（DP）</b></p> <p>経済学部経済学科の課程を修め、下記的能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会と経済の問題に高い関心を持ち、協働性を持って社会人としてふさわしい主体的な行動ができる。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修得した知識に基づいて社会の課題について思考し、政策や制度の影響を判断することができる。</li> <li>・自分が直面する問題の解決に向けて、自らの思考結果を適切に表現することができる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済活動の仕組みや市場の役割を歴史的な背景を含めて理解している。</li> </ul>	責任関係	備考

<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会動向を理解するために必要な豊かな教養を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で働くために必要な情報処理能力を身につけている。</li> <li>・豊かな社会生活をおくるために必要な外国語を含むコミュニケーション能力を身につけている。</li> <li>・現代社会で働くために必要な数理的思考力を身につけている。</li> </ul>		
---	--	--

教育課程編成・実施の方針 (CP)	責任関係	備考
<p>経済学部経済学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学に対する興味関心を持ちやすいように、導入的科目として必修科目を設置します。</li> <li>・自らの関心に基づく主体的な勉学が可能になるように専門選択必修科目と専門選択科目を設置します。</li> <li>・段階的な知識の修得を可能とするために、1年次の専門必修科目、2年次以降の専門選択必修科目を設置します。</li> <li>・多様な関心に対応するために、教養選択必修科目と教養選択科目を設置します。</li> <li>・現代社会における必要な技能が十分身につくように、語学科目、情報科目、数学・統計科目を設置します。</li> </ul>		

入学者受入れの方針 (AP)	責任関係	備考
<p>経済学部経済学科では、学部学科の教育目標に共感し、経済学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。</p> <p>・学力の三要素に即した求める人物像</p> <p>&lt;主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広い視野と専門的学識を身につけ、変化し多様化する社会の課題を把握して、協働性を持って社会に貢献する意欲を持っている者。</li> </ul> <p>経済学が対象とするのは、日々、社会で生じている複雑な経済問題です。問題の所在を的確にとらえ、これを分析し理解するためには、広い視野と経済学の専門知識が不可欠です。そのため、広く社会の問題に関心を持ち、経済学の学修を通して高い専門性を身につけていこうとする意欲が求められます。また、問題解決に向けての道筋を考えるためには、意見の異なる人とも議論し協調して考える姿勢が求められます。</p> <p>&lt;思考力・判断力・表現力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済および経済学に対する強い知的関心と学修意欲を持ち、自分の考えを他者に伝えることができる者。</li> </ul> <p>経済学の学修では、経済事象のみならず、実学として社会全般に対する強い関心を持っていることが求められます。また、学術書・論文・記事などを読み、社会や経済が抱える課題とその解決策について自ら考え、それらを他者に対して積極的に表現することが必要とされます。そのため、文章を論理的に読み解き、自分の意見や考えを的確にまとめて、他者に対してわかりやすく伝えられる力を身につけていることが期待されます。</p> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下に示すような、経済学の専門的知識・教養の修得に必要な基礎学力を有している者。</li> </ul> <p>○高等学校等で修得すべき具体的内容</p> <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学の学修では、新しい知識を修得するために、教科書や学術書、様々な記事などを読み解くことが必要となります。また、レポートや論文の執筆、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他者に対して自分の考えを論理的かつ的確に伝えることが不可欠です。そのため、文章を正しく理解するための読解力と、自分の考えを的確に伝えるための表現力が求められます。</li> </ul> <p>外国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学科では、第1外国語として英語を必修科目としており、英語で書かれた文献を読む機会も多くあります。そのため、英語のリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングについての基本的能力やコミュニケーション能力が求められます。また、第2外国語として中国語やスペイン語などを選択科目としており、各人の経済学的な興味関心に応じて、各地域の社会情勢等の知識や理解を深める意欲を持っていることが期待されます。</li> </ul>		

<p>地理歴史・公民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学の学修では、過去や現在の出来事を踏まえて、それぞれの国・地域における社会の動きと経済の仕組みを理解することが必要です。そのため、日本や世界の歴史・地理と現代の社会に関する基本的な知識が求められます。</li> </ul> <p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学では、グラフや数式を用いた分析がしばしば行われます。そのため、グラフや数式の基礎を理解し、それを応用して論理的な思考を展開する力が求められます。</li> </ul> <p>-入学前に求められる学習活動、学習歴-</p> <p>経済学科の学びでは、上記のように、さまざまな基礎的学力を身につけていることが必要です。そこでまずは、高等学校等での正課の学びにしっかりと取り組むことが重要です。こうした過程で、外国語や数学、簿記などに関する資格を取得することも大いに役立ちます。</p> <p>学業だけでなく、色々な本を読むこと、ニュースや新聞に目を通すことなどを習慣にして、日ごろから社会・経済の問題に対してアンテナを張っておくことも重要です。さらには、読んだ本や記事の内容を要約してみる、周囲の人とお互いの意見について発表し合うといった活動を通して、文章を論理的に読み解き、自分の考えを論理的に伝えるトレーニングを積んでおくことも有用です。入学前にこうした取り組みを行っておくことは、入学後の学びを円滑に進めやすくし、経済学に対する学修意欲を高めることにもつながります。</p>		
--	--	--

<経営学部>

卒業認定・学位授与の方針 (DP)	責任関係	備考
<p>経営学部経営学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代産業社会を複合的かつ本質的に理解するための幅広い教養を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代産業社会の課題に対応できる「共創力」「課題解決能力」を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学諸領域に精通した「産業人」として活躍するための専門知識を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業を中心とする組織の運営とその課題の解決にあたれる技能を身につけている。</li> </ul>		

教育課程編成・実施の方針 (CP)	責任関係	備考
<p>経営学部経営学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い視野の形成を促し、「心豊かな産業人」育成のために、経営学の基盤となる社会科学系の諸科目に加え、現代的なテーマに対応した教養的科目を設置します。</li> <li>・現代産業社会の課題に対応できる「共創力」「課題解決能力」を養うために、相互交流をベースとした科目、ゼミナール、論文作成科目を段階的に設置します。</li> <li>・経営学領域の諸理論について、バランスのとれた学修ができるよう、戦略経営・マーケティング・会計学・情報システム学の4系列の専門科目群を編成します。</li> <li>・組織の運営とその課題の解決を可能とする技能を養うために、情報処理・語学関連の科目を必修とし、より上級な学修のための科目を設置します。</li> </ul>		

入学者受入れの方針 (AP)	責任関係	備考
<p>経営学部経営学科では、学部学科の教育目標に共感し、経営学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。</p> <p>-学力の三要素に即した求める人物像-</p> <p>&lt;主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に深く関心をよせ、自身の知識・能力を発展させて能動的にテーマを設定し、勉学に取り組む意欲をもっている者。</li> </ul> <p>経営学を学ぶにあたっては、広く社会に対する関心をもつことがとても重要です。単に社会の知識を得るだけではなく、他者のことも考えられる心の豊かさをもって、社会における課題を発見し、これを学修的関心へと高めていく意欲が求められます。</p>		

- ・世代や国籍にとらわれることなく、協働して課題解決・目標達成することの意義を理解し、コミュニケーションを通じて他を理解する態度を身につけている者。

現代の組織は、特定の年代や特定の国に閉じこもった関心をもつのではなく、広い視野を持ち、多様な人と協力し合い、活動を進めていく必要があります。多様性を当然のことと受け入れ、様々な人々と理解し合い、協力をし合い、「共創」する態度が求められます。

#### <思考力・判断力・表現力>

- ・知識や技能に基づき、筋道を立てて深く考え、判断を導くことができる者。  
産業社会における様々な課題に対応するためには、しっかりと知識と技能に基づき、諸課題を洞察する力が必要です。物事をしっかりと分析し、論理的に考え、これをもとに判断につなげ、課題を解決していく力が求められます。
- ・高等学校卒業レベルの言語能力を有し、自身の考えを言葉や文章で適切に表現し、伝えることができる者。  
自身の考えを伝えるにあたり、「言語」は、重要な手段です。多様な人と関わり合い、協力を引き出すためには、自身の考えをしっかりと「言語化」して伝える力が求められます。
- ・大学卒業後の進路を明確に定め、そのための目標設定と能力の獲得にまい進できる者。  
学修を進めていくにあたり、重要なことは、何のために学ぶのかという「目標」です。将来の進路について、しっかりと考え、それに向かって学修を重ねる力と意欲が求められます。

#### <知識・技能>

- ・高等学校の主要教科（国語・外国語（英語））について内容を理解し、高等学校卒業相当の知識・教養を身につけている者。  
経営実務におけるコミュニケーションは、言語を通じてなされることから、日本語あるいは英語で書かれた様々な文書をしっかり理解し、日本語あるいは英語でコミュニケーションをとる力が必要です。また、教養人として活動するため、高等学校卒業相当の知識・教養を身につけていることが求められます。

#### ○高等学校等で修得すべき具体的内容

##### 国語

- ・専門書や資料などを理解するための読解力、自分自身の意見をレポートや論文としてまとめるための文章力  
経営学を学ぶためには、これまでに蓄積されてきた専門書や、様々な著者・機関が発行している諸資料を読み解いていく力が必要です。また、学んだ結果生まれた自身の意見を、レポートや論文の形でまとめる文章力が必要です。経営学部各授業においても、学びの成果を試験やレポートとしてまとめていくことが求められますし、卒業にあたっては、論文作成科目の修得が求められます。

##### 外国語

- ・英語の論文や資料などを理解するための語学力、自分自身の考えを英語で表現する力、グローバルな環境でのコミュニケーション能力  
経営学を学ぶにあたっては、日本語で書かれた論文や資料だけでなく、英語で書かれた論文や資料も活用することが求められます。また、国際的に活動するために、自分自身の考えを英語で表現する力や、様々な媒体を用いてのグローバルなコミュニケーションをとる能力が求められます。

##### 地理歴史・公民

- ・社会の動きやしきみを理解する上で重要となる、歴史や社会に関する基本的知識  
組織は、社会との関わりの中で経営されるものですので、経営学を学ぶにあたっては、歴史的・文化的・社会制度的な文脈についての知識を持つ必要があります。

##### 数学・情報

- ・上記の基本教科に加え、数学について高校生として基本的な知識をもっていることが望まれます。  
数学は、経営学において、統計的手法を用いた分析などを行うにあたって必要となるものです。経営学部では、経営情報を理論的かつ技術的に学びますので、高校で学ぶ情報の基礎について理解していることが望まれます。

#### 一入学前に求められる学習活動、学習歴

上記のように、経営学部における学びを進めていくためには、様々な領域の基礎的な学力を身につけることが求められます。高等学校における正課の学びにしっかりと取り組み、基本的な学力を身につけることが重要です。



<p>英語については、外部試験にも積極的に挑戦してみることがよいでしょう。また、専門学科で学んでいる人は、簿記をはじめとする経営学に関係の深い技能の外部試験にも挑戦するとよいと考えられます。自身の能力の進捗を客観的に確認できると同時に、大学における学修を進展させる動機付けにもなります。</p> <p>また、狭い意味での勉強以外にも、様々な書物を読み新しい世界に触れることや、学内イベントの運営、ボランティアへの参加などを通じ、多くの人たちと接し、協力し合う力を養うことは、経営学部における実践的学修を進めるにあたり力となるでしょう。</p>		
---	--	--

<法学部>

<b>卒業認定・学位授与の方針 (DP)</b>	責任関係	備考
<p>法学部法学科の課程を修め、下記的能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に存在する諸課題を多角的に分析しようとする態度を身につけている。</li> <li>・法に関する知識ならびに技能を用いて諸課題を解決に導こうとする志向性をもっている。</li> <li>・人権感覚、公と私の区別、権限・責任の自覚をもっている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に存在する諸課題を多角的に分析できる能力を身につけている。</li> <li>・異なる意見を整理し、コンセンサスを得るための調整能力を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法に関する以下の基礎的知識を修得している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 日本国憲法を中心とする国家規範の構造</li> <li>b. 制定法の理解と、その基礎にある様々な価値観や法原理</li> <li>c. 法を運用する様々な職業・機関</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法を適切に解釈適用する技能を修得している。</li> <li>・公正衡平な解決を導きうる技能を修得している。</li> <li>・調整能力、弁論能力、交渉力、組織マネジメント能力、危機管理能力等を身につけている。</li> </ul>		

<b>教育課程編成・実施の方針 (CP)</b>	責任関係	備考
<p>法学部法学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い教養を修得するために一般教養科目および特定教養科目を設置します。</li> <li>・問題意識、調査能力および分析力を涵養するために法学基礎演習科目を設置します。</li> <li>・卒業後のキャリアを意識したコース制を採用し、カリキュラムを編成します。</li> <li>・専門知識を修得するために、講義・演習科目を設置します。</li> <li>・専門キャリア意識を涵養するために、基礎教養教育を実施します。</li> <li>・「考える力(様々な社会問題と向き合い、その解決を見いだす能力)」を修得するために、演習やゼミナールを設置し、少人数教育を実践します。</li> </ul>		

<b>入学者受入れの方針 (AP)</b>	責任関係	備考
<p>法学部法学科では、学部学科の教育目標に共感し、法学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。</p> <p>・学力の三要素に即した求める人物像・</p> <p>&lt;主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「考える力」および「生き抜く力」を養い、将来実社会で活かしたいという意欲をもっている者。  ただ法律の知識を修得するだけでなく、それを社会でどう応用するかという“考える力”が、法学部の学びにおいては必要不可欠です。また、実社会において課題を発見し、大学で得た学びを基礎に、問題を適切に判断し、周囲と協調しながら自らの考えを発信できる、真に“生き抜く力”を身につけたいと強く希望する人物を求めます。</li> <li>・学修のみならず物事に意欲的、かつ継続的に取り組む姿勢を身につけている者。  法的素養は、物事を論理的に思考することの積み重ねを通じて修得されます。基本的な法律知識を身につけ、条文解釈や判例を理解し、複雑な法律用語を使いながら、実践的に法を用いる能力を修得するためには、自律的・継続的な学修意欲を必要とします。また、法律は社会と切り離して考</li> </ul>		

えることはできませんから、広い視野をもって社会一般に関心を持ち、自らすすんで様々な情報を獲得できる人物を求めます。

- ・ 世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働できる者。  
少子高齢化やグローバル化がすすむ現代において、他者のことを考える想像力や、弱者に寄り添い思いやる「人間性」を育むことは、法律知識を正しく使い、広く社会に貢献するために不可欠な要素です。人権と人権がぶつかるような場面でも、それぞれの立場に寄り添える理解力があり、文化を問わず他者との共生を目指すことができる人物を求めます。

#### <思考力・判断力・表現力>

- ・ 法律、政治、社会問題に対する関心をもっている者。  
国内外の社会情勢について知識を深めることはもちろん、様々な事象の背景にある歴史や原因を分析する視点も重視します。したがって、高等学校等で学習する「地歴・公民」に高い関心を持ち、かつ教科書や参考書をただ暗記するだけでなく、日頃からニュースや新聞によく触れ、自ら建設的な課題・疑問を見つけることができる力を求めます。
- ・ 得た知識・技能を基に自ら思考を深め、問題解決に向けて適切に判断し、自らの考えを表現できる者。  
法学学修において、文献を読解する力と自らの考えを他者に正確に伝える表現力は不可欠です。そのため、高等学校等の「国語」で学習する読解・論述力が重視されます。また、法学分野におけるグローバル化は著しく、法学学修に必要な文献は日本語に限りません。したがって外国語、特に「英語」の読解能力も求められます。さらに本学部では、双方向型のコミュニケーションを通じて法律知識を深めるゼミナール学修を重視しており、学びの過程でのプレゼンテーションやディスカッションを通じた論理的思考力の涵養においては、「数学」や「物理」等の理系科目の学習も有用です。

#### <知識・技能>

- ・ 以下に示すような、法学の専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。

#### ○高等学校等で修得すべき具体的内容

##### 国語

- ・ 法学学修において、文献を読解する力と自らの考えを他者に正確に伝える表現力は不可欠です。そのため、高等学校等で学ぶ「国語」のうち、特に現代文を通じて修得する読解力に加えて、自己の見解を適切な言葉を用いて、論理的に展開できる記述力が求められます。

##### 公民

- ・ 法学学修に必要な国内外の社会情勢を正確に理解するためには、高等学校等で学ぶ「公民」、特に政治・経済に関する基本的知識が不可欠です。また、教科書や参考書の暗記知識だけでなく、日頃からニュースや新聞を通じて、多様な情報によく触れ、学校で学んだ知識と現実社会の事象とを結びつけて考えることができる理解力・分析力が求められます。

##### 地理歴史

- ・ 深い法的思考力の涵養には、国内外の社会情勢を環境的・歴史的・地政的な背景や条件から考察する視点が必要です。したがって、「地理」や「歴史」の基本的知識は、現代の法律を正しく理解し使うために不可欠です。また「地理」や「歴史」の知識の修得を通じて、社会的・文化的背景が異なる多様な他者を積極的に理解しようとする姿勢が求められます。

##### 外国語

- ・ 法学のグローバル化は著しく、国際的視野のもとで法学を学ぶうえで必要となる文献は日本語に限りません。そのため外国語、特に「英語」のリーディング能力が求められます。加えて、ボーダーレスな現代において、本学部で学んだ知識を活用しながら多様な他者を理解し、真に社会で活躍するためには、国際性をもったコミュニケーション能力や自己表現のツールとして、英語のリスニング・ライティング・スピーキング能力が不可欠です。したがって、高等学校等を通じて学ぶ「英語」全般の基本的能力が求められます。

#### 一入学前に求められる学習活動、学習歴

上記のように、法学部法学科での学びにおいては、さまざまな領域の基礎的な学力を身につけていることが求められます。そのためにはまず、高等学校等での正課の学びにしっかりと取り組み、基本的な知識を身につけることが何より重要です。このほか、英語能力や漢字能力に関する資格などを取得することも、継続的な学習を促し、学習成果を確認するうえで役立ちます。

学業だけでなく、日ごろから読書をしたり、新聞やニュースを見たりして、法律や政治など社会問題に広く関心を持つことも重要です。ある一つの問題について、多様な他者の立場を想像しながら自己の

<p>考えを深め、それを客観的・論理的に誰かに伝える能力は、法学科の学びにとって必須です。このような能力を養うためには、大学入学前から、学校の友人や家族だけでなく、学外の人や世代・国籍の異なる人などと積極的にいかわり、意見を交わす機会をもつことが大切です。こうした経験は、法知識のより深い理解とそれを生かした実践的な応用力につながります。</p>		
---	--	--

<社会福祉学部>

<b>卒業認定・学位授与の方針 (DP)</b>	責任関係	備考
<p>社会福祉学部は、各学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉社会の実現の形成に参加できる。</li> <li>・真摯な研究姿勢を身につけている。</li> <li>・現実の人間の具体的な課題を体現している。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉社会の実現に貢献できる課題分析能力を身につけている。</li> <li>・共感と協働のためのコミュニケーション能力を身につけている。</li> <li>・独自の視点を身につけている。</li> <li>・課題解決のための理論と実践を融合する力を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉学部・各学科の理念・目的を習得している。</li> <li>・専門領域における知識を習得している。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援のための実践力を身につけている。</li> <li>・コミュニティづくりのための組織力を身につけている。</li> <li>・専門領域における技能を習得している。</li> <li>・幅広い分野の職場体験を通じた実践力を身につけている。</li> <li>・研究力を身につけている。</li> </ul> <p>「社会福祉学科」 社会福祉学部社会福祉学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉に関する幅広い関心と意欲を持ち、社会に貢献できる。</li> <li>・自らのあり方を見つめ、常に向上するために努力する態度を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉に関する幅広い知識に基づき、多様な視点から論理的な思考と倫理的な判断ができる。</li> <li>・自らの考えを文章や口頭を通して表現することができる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <p>[ソーシャルワークコース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワークの基本的な価値・知識・技術と、地域を主体とした包括的な視点を身につけている。</li> </ul> <p>[教育福祉・社会デザインコースの教育福祉]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育を中心に、福祉と教育を連携させる視点を身につけている。</li> </ul> <p>[教育福祉・社会デザインコースの社会デザイン]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関連企業・NPO・行政など福祉社会の各フィールドにおいて生かす、福祉の知識・構想力を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <p>[ソーシャルワークコース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じた福祉支援ができるマネジメント技術を習得している。</li> </ul> <p>[教育福祉・社会デザインコースの教育福祉]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育を中心に、福祉と教育を連携させる技術を習得している。</li> </ul> <p>[教育福祉・社会デザインコースの社会デザイン]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関連企業・NPO・行政など福祉社会の各フィールドにおいて生かす、総合的な技術を修得している。</li> </ul> <p>「子ども教育福祉学科」 社会福祉学部子ども教育福祉学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p>		

<p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学・福祉学・心理学に深い関心を持ち、子どもに関わる問題を探求していく力を身につけている。</li> <li>・生涯にわたり子どもの教育・福祉について学び続けようとする自己学習力を身につけている。</li> <li>・積極的に社会の教育・福祉に参加しようとする意欲と責任感を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学・福祉学・心理学の問題を体系的に認識・理解する能力を身につけている。</li> <li>・教育学・福祉学・心理学の子どもの問題に明晰な分析を加える能力を身につけている。</li> <li>・保育・教育における実践において、自らの思いを適切に伝え、表現する力を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学・福祉学・心理学の基礎的専門知識を身につけている。</li> <li>・教育学・福祉学を社会・文化・自然と関係づけて理解する幅広い教養を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長・発達に支援ができる実践的スキルを習得している。</li> <li>・子どもの成長・発達基盤である家族・地域を支援する実践力を身につけている。</li> <li>・子ども・家族・地域とのコミュニケーション能力を身につけている。</li> </ul>		
--	--	--

教育課程編成・実施の方針 (CP)	責任関係	備考
<p>社会福祉学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学での学修にスムーズに入ることができるよう、基礎領域群を編成します。</li> <li>・深い教養を習得することができるよう、教養的科目群を編成します。</li> <li>・福祉・保育・教育に関する専門的理論を学ぶことができるよう、理論領域群を編成します。</li> <li>・福祉・保育・教育に関する技術や実践的な姿勢が習得できるよう、技能・実践領域群を編成します。</li> <li>・福祉・保育・教育などについて広い視野で理解し分析する力が習得できるよう、関連領域群を編成します。</li> <li>・幅広い視点を養うために多様な自由科目を設置します。</li> <li>・国際感覚を習得するための専門的科目を設置します。</li> <li>・研究能力を習得するために演習・卒業論文・卒業研究科目を設置します。</li> </ul> <p>「社会福祉学科」 社会福祉学部社会福祉学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの履修モデルを想定した教育課程を編成します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉及び精神保健福祉士の養成モデル</li> <li>2. 特別支援学校教諭の養成モデル</li> <li>3. 誰もが個性豊かな市民のボランティアな活動に携わり、共に支えあい協働するグローバルな市民社会の担い手となるためのモデル</li> </ol> </li> <li>・4年次の「社会福祉専門演習」と「卒業論文」を学びの集大成とする段階的なカリキュラムを編成します。</li> </ul> <p>「子ども教育福祉学科」 社会福祉学部子ども教育福祉学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの領域および演習・卒業論文、自由科目の学びをとおして、教育学・福祉学・心理学が構築してきた学問性を総合的に身につけ実践力を養成するカリキュラムを編成します。</li> <li>・1～2年次では導入教育を基礎にしながら、各領域の基礎を学ぶとともに、教育・福祉・心理に関連する科目を設置します。</li> <li>・3年次では、各領域の専門を学ぶとともに諸問題に対する専門性を身につけるための科目、4年次にはこれらの成果をまとめる卒業論文科目を設置します。</li> </ul>		

・4年間を通した少人数のゼミと領域別専門教育によって、子ども教育福祉の総合的な研究・実践力を備えた資質を獲得するカリキュラムを編成します。		
---	--	--

入学者受入れの方針 (AP)	責任関係	備考
<p>社会福祉学部では、学部の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉・教育に対する強い知的関心と学修意欲をもっている者。</li> <li>・社会福祉・教育の専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。</li> <li>・社会福祉・教育の研究に必要となる自らの知識・技能を活用して問題を解決するための思考力、判断力を身につけている者。</li> <li>・社会福祉・教育の学修を通じて得られる専門的技術の修得に必要なコミュニケーション能力、自己表現能力、および共感性を身につけている者。</li> <li>・他者と協働して学修しようとする意欲をもっている者。</li> <li>・社会福祉・教育の学修を通じて得られた専門性を生かして、社会に貢献する意欲をもっている者。</li> </ul> <p>「社会福祉学科」 社会福祉学部社会福祉学科では、学部学科の教育目標に共感し、社会福祉学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。</p> <p>-学力の三要素に即した求める人物像-</p> <p>&lt;主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉や特別支援教育に対する強い知的関心と学修意欲をもつ者。 社会福祉学科への入学を志望する方には、社会福祉・特別支援教育・福祉社会に関する様々な領域の学問を積極的に学び、専門性を身につけていこうとする強い関心・意欲が求められます。</li> <li>・多様性を尊重しながら、自ら働きかけ協働する意欲をもつ者。 社会福祉学科の学修では、社会の多様な背景のある人々の尊厳を守り、認め合い、尊重することがその知識や技術の基礎となります。そのため、学生同士はもちろんのこと、実習などを通じて多様な他者と積極的に関わり、協力し合いながら学修を進めようとする意欲が求められます。</li> </ul> <p>&lt;思考力・判断力・表現力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で生じている問題について思考し、これまで得た知識と照らし併せながら、自分なりの判断ができる者。 社会福祉学科の学修では、社会問題や人間の発達に関心を持ち、その問題の構造や要因と解決のあり方、人間に対する支援のあり方について、思考し続けることが重要です。教科書や学術書・論文を通じて様々な社会問題や人間の発達に関する知識を得るためには、高等学校の「国語」における文章理解のための読解力が求められます。また、高等学校における「地理歴史」「公民」の基本的な知識と社会問題とを関連付けながら、自分なりの考えをもつことが求められます。</li> <li>・自らの考えを何らかの手段で表現しようとする者。 社会福祉学科の学修では、その過程において、さまざまな人々へ自らの考えを表現し、意見の交換とその評価を通じ、さらにより深い学びを得ることができます。そのため、高等学校の「国語」において習得する、他者に意見を伝えるための多様な表現力が求められます。</li> </ul> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下に示すような、社会福祉や特別支援教育などの専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。</li> </ul> <p>○高等学校等で修得すべき具体的内容</p> <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉学科の学修では、教科書、学術書、論文を読むことが不可欠です。また、学びの過程では、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、自分の意見を他者へ適切に伝えることが求められます。さらに、実習やフィールドワークにおいては、相手の話をよく聞き、状況に応じて応答することも必要です。このように、読解力・思考力・表現力、自分の考えを的確に表現する力が求められます。</li> </ul>		

<p>外国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉学科の学修では、外国語文献を読む機会もあり、また実際の援助や教育の場面では、様々な文化的背景をもつ人々とかかわることになります。そのため、外国語に関する基礎的な読解力とコミュニケーション能力、および社会問題を国際的な視野をもって把握する力が求められます。</li> </ul> <p>地理歴史・公民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本や世界における、過去から現代までの人々の営みや社会のあり方が、社会福祉や特別支援教育の学問領域を形成してきました。そのため、社会の仕組みや人権問題に関する基礎的な知識、および歴史、文化に対する知的好奇心が求められます。</li> </ul> <p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉学科の研究では、社会調査などに基づく統計的な手法を用いたデータ分析が必要となります。そのため、基礎的な計算、論理的な思考力、統計に関する基本的な考えを身につけていることが求められます。</li> </ul> <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートや論文の執筆、データの分析などを行うためには IT 機器の活用が必要となります。調査データの処理、援助計画や指導案の策定などを円滑に行うため、パソコンを操作するための基本的な技能が求められます。</li> </ul> <p>入学前に求められる学習活動、学習歴</p> <p>上記のように、社会福祉学科において学修を進めるにあたって、様々な領域の基礎的な学力を身につけていることが必要です。</p> <p>そこでまずは、高等学校等での正課の学びを着実に取り組み、基本的な能力を身につけることが重要です。</p> <p>また、学業だけではなく、課外活動やボランティア活動などを通じて、様々な社会問題や支援活動の場面に触れることや、集団の中で自らの能力を発揮するためにどのように行動すればよいかを考えることにより、入学後の学修内容を生きた知識や技術、価値につなげる力となります。</p> <p>「子ども教育福祉学科」</p> <p>社会福祉学部子ども教育福祉学科では、学部学科の教育目標に共感し、子ども教育福祉学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。</p> <p>学力の三要素に即した求める人物像</p> <p>&lt;主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの教育や保育に対する強い知的関心と学修意欲をもっている者。 子ども教育福祉学科への入学者を志望する方には、共感をもって子ども支援に取り組む意欲が求められます。積極的に学び、コミュニケーション能力を鍛え、専門性を身につけていこうとする強い関心・意欲が求められます。</li> <li>・世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働する意欲をもつ者。 子ども教育福祉学科の学修は、子どもの理解・支援を扱う学問であるため、子ども、利用者、保護者等、様々な人とのかかわりを通じた学びの経験は不可欠です。具体的には、ディスカッションやグループワーク、模擬授業や模擬保育、実習などによる学修の機会が多く存在します。そのため、このような場面を通して他者と共同して学修しようとする意欲が求められます。</li> </ul> <p>&lt;思考力・判断力・表現力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間および子どもの教育・福祉・心理をめぐる諸問題に関心をもち、多角的、柔軟に思考することができる者。 子ども教育福祉学科の学修は、教科書や様々な学術書、論文を読むことが不可欠です。学びの課程では、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を他者へ適切に伝えることが求められます。</li> <li>・人間の尊厳、人権を尊重し、課題解決に向かって努力し、論理的な思考ができる者。 子ども教育福祉学科の学修は、人間の尊厳、人権を尊重する姿が求められます。教育的課題や学問的課題を解決するために必要な、幅広い事柄に対する知的好奇心、問題を発見する観察力、問題解決に向けて思考し、表現する力が求められます。</li> <li>・得た知識・技能を基に自ら思考を深め、問題解決に向けて適切に判断し、自らの考えを表現できる者。</li> </ul>		
--	--	--

<p>子ども教育福祉学科の学修は、得た知識・技能を自身の課題、教育福祉の課題に向けて活かす姿勢と思考力・判断力が求められます。さらに自らの考えを分かりやすく、オリジナリティーをもって表現する力が求められます。</p> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下に示すような、社会福祉学、および教育・保育に関する専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。</li> </ul> <p>○高等学校等で修得すべき具体的内容</p> <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども教育福祉学科の学修では、教科書や様々な学術書、論文を読むことが不可欠です。また、学びの課程では、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を他者へ適切に伝えることが求められます。そのため、こうした文章理解のための読解力、意見を伝えるための表現力が求められます。</li> </ul> <p>保健体育・家庭・芸術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども教育福祉学科では教育・保育の場で必要とする発想力・技能の基礎が求められます。そのため、保健体育・家庭・芸術に対する知的好奇心が求められます。</li> </ul> <p>地理歴史・公民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去から現代まで、人のあらゆる営みが社会福祉を深く理解するための重要な知識となります。そのため、社会福祉や人権問題などに関する基礎的な知識、および歴史、文化に対する知的好奇心が求められます。</li> </ul> <p>外国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども教育福祉学科の学修では、外国語文献を読む機会もあり、また実際の保育や教育の場面では、様々な文化的背景をもつ人々とかかわることになります。そのため、外国語に関する基礎的な読解力とコミュニケーション能力、および社会問題を国際的な視野をもって把握する力が求められます。</li> </ul> <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートや論文の執筆、データの分析などを行うためには IT 機器の活用が必要となります。調査データの処理、指導案作成等を円滑に行うための、パーソナル・コンピューターを操作するための基本的な技能が求められます。</li> </ul> <p>入学前に求められる学習活動、学習歴</p> <p>上記のように、子ども教育福祉学科の学びでは、様々な領域の基礎的な学力を身につけていることが必要です。そこでまずは、高等学校等での正課の学びにしっかりと取り組み、基本的な能力を身につけることが何より重要です。また、学業だけでなく、課外活動やボランティア活動などを通じて、様々な社会問題や支援活動の場面に触れることや、集団の中で自らの能力を発揮するためにどのように行動すればよいかを考えることにより、入学後の学修内容を生きた知識や技術、価値につなげる力となります。</p>		
--	--	--

<地球環境科学部>

<b>卒業認定・学位授与の方針 (DP)</b>	責任関係	備考
<p>地球環境科学部は、各学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球と地域の環境問題や社会的課題に高い関心を有している。</li> <li>地球と地域の環境問題や社会的課題の解決に意欲的に取り組む態度を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球と地域の環境問題や社会的課題を適切に捉え、その解決に必要な思考力、判断力を有している。</li> <li>自らが行った思考過程や判断基準を他者に分かるように表現できる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>修得した専門領域の知識を環境問題や社会的課題の解決に役立てることができる。</li> <li>修得した専門知識を活用し、環境問題や社会的課題を正確に理解することができる。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>修得した専門的技術や手法を、環境問題や社会的課題の解決に活用できる。</li> <li>ICT、思考力、判断力を駆使して、自らの考えを発表することができる。</li> </ul>		

<p>「環境システム学科」 地球環境科学部環境システム学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境に関わる諸問題に、様々な立場の人たちと協働することができる。</li> <li>・地球環境問題の解決に積極的に取り組む姿勢を有している。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得られたデータに基づき、他者が理解できるように事象を表現できる。</li> <li>・問題解決に向けて考えて行動し、その結果を説明、発表する能力を備えている。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境をシステムとしてとらえ、科学的根拠に基づき持続可能な社会の形成に貢献できる。</li> <li>・地球環境を構成する4圏（地圏・気圏・水圏・生物圏）をより深く理解している。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題を解決するため、ICTを効果的に活用できる。</li> <li>・フィールドワークを柱とする実践的かつ客観的な環境調査技術を修得している。</li> </ul> <p>「地理学科」 地球環境科学部地理学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球と地域の社会および自然の諸問題を認識している。</li> <li>・異文化の多様性を自ら学び認識する能力を備えている。</li> <li>・地球や地域が抱える課題の解決に向けて主体的に行動しうる態度を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然的・社会的メカニズムと諸問題を地理的・空間的視点から考えることができる。</li> <li>・地球や地域が抱える課題を公正かつ的確に判断することができる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の概念・原理に関する知識を身につけている。</li> <li>・地域の自然的特性・人文的的特性に関する知識を身につけている。</li> <li>・日本をはじめ、世界各地の知識を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドにおける地域調査の技能を身につけている。</li> <li>・地域に関わるデータを統計的に処理し、表現できる技能を身につけている。</li> <li>・地図、測量、GISなどから得られるデータを活用した空間分析の技能を身につけている。</li> </ul>		
---	--	--

教育課程編成・実施の方針 (CP)	責任関係	備考
<p>地球環境科学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境の成り立ちや地域社会の仕組みについて幅広く理解するための教養的科目と、それらを礎として問題解決のための専門知識を学ぶ学部共通科目を設置します。</li> <li>・教養的科目や学部共通科目を基礎として、より高次の思考力、判断力、表現力の修得を重視した、専門分野を横断する専門科目を設置します。</li> <li>・アクティブ・ラーニングや少人数クラス制度を取り入れ、学生自らが学ぶ積極性を養う充実した専門科目を設置します。</li> <li>・地球環境や地域社会にある問題を正しく理解し、高度な知識を得るための専門科目を設置します。</li> <li>・大学教育の集大成として、個別あるいは少人数グループによる卒業研究科目を設置します。</li> <li>・地球環境問題や地域社会の課題解決に向けた技能を修得するため、フィールドワークや実験・実習科目、演習科目を配置します。</li> <li>・ICTや思考力、表現力などの技能の集大成となる卒業研究を設置します。</li> </ul> <p>「環境システム学科」 地球環境科学部環境システム学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p>		



<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが積極的にフィールドに赴き、自然環境を身を以て体験する科目を配置します。</li> <li>・地球を取り巻く様々な自然現象や環境問題について学ぶ学部共通、学科共通科目を配置します。</li> <li>・教育効果を高めるために、少人数に分けた科目を配置します。</li> </ul> <p>[生物・地球コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物・地球・情報に関する専門科目を設置します。</li> <li>・生物・地球・情報に関する技能の向上をめざす科目を設置します。</li> </ul> <p>[気象・水文コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気象・水文・情報に関する専門科目を設置します。</li> <li>・気象・水文・情報に関する技能の向上をめざす科目を設置します。</li> </ul> <p>「地理学科」</p> <p>地球環境科学部地理学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドに出て地理的関心を高める科目を配置します。</li> <li>・日本、世界の自然事象、人文事象について学ぶ地誌関係科目、共通科目の導入科目を初年次に配置します。</li> <li>・地理学的・基礎的知識の上になたって考える力を身につけるために、地域的問題に関する科目を設置します。</li> <li>・地域の基礎、地理学の基礎を学ぶ科目を初年次に配置します。</li> <li>・地域の自然的特性と人文的特性を講義する専門的科目を配置します。</li> <li>・地図、GIS の活用に関する科目を学生の学習能力の発達にあわせて段階的に科目を配置します。</li> <li>・フィールドにおける地域調査とその前段階にあたる資料調査・分析に関わる科目を学生の学習能力の発達にあわせて段階的に配置します。</li> <li>・それぞれの科目でアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を実施します。</li> </ul>		
---	--	--

入学者受入れの方針 (AP)	責任関係	備考
<p>地球環境科学部では、学部の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球と地域の環境問題の解決を目指して意欲を持って学修に取り組むことができる者。</li> <li>・それぞれの分野における円滑な学習に必要な基礎的学力を備えた者、または大学において学部の教育目標を達成しうる資質を備えている者。</li> </ul> <p>「環境システム学科」</p> <p>地球環境科学部環境システム学科生物・地球コースおよび気象・水文コースでは、学部学科の教育目標に共感し、環境システム学科生物・地球コースおよび気象・水文コースでの学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。</p> <p>・学力の三要素に即した求める人物像</p> <p>&lt;主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境システム学に対する強い知的関心と学修意欲を持っている者。</li> <li>環境システム学とは、私達を取り巻く様々な自然環境を相互に作用し合うシステムとしてとらえ、環境保全を視野に入れた総合的な学問です。環境システム学科への入学を志望する方には、環境システム学を積極的に学び、専門性を身につけていこうとする強い関心・意欲が何より求められます。</li> <li>・世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働できる者。</li> <li>自然環境問題や環境保全に関わるには、グローバルな人との関わりが必要になります。そのためには、国際的情報交換に欠かせないコミュニケーション能力を磨く意欲が求められます。さらに、実験や実習を通じて測定・分析方法を修得し、環境問題の解決へ向けて貢献したいという意欲が求められます。</li> </ul> <p>[生物・地球コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物分類技能検定や自然再生士のような生物・地学に関わる資格を取得する意欲をもっている者。</li> <li>・生物・地学・環境情報に関心をもち、フィールド調査に取り組むことができる者。</li> </ul> <p>地球環境の構成要素のうち「生物」「地学」を中心とした自然科学の知識の修得とともに、環境問題を包括的に捉えるための高度な情報処理技術（環境データサイエンス）を学修し、さらに他の重要な構成要素である「気象」「水」との関わりも学修しようとする意欲が求められます。</p>		

[気象・水文コース]

- ・気象予報士や環境計量士のような気象・水文に関わる資格を取得する意欲をもっている者。
- ・気象・水文・環境情報に関心をもち、フィールド調査に取り組むことができる者。  
地球環境の構成要素のうち「気象」「水」を中心とした自然科学の知識の修得とともに、環境問題を包括的に捉えるための高度な情報処理技術（環境データサイエンス）を学修し、さらに他の重要な構成要素である「生物」「地学」との関わりも学修しようとする意欲が求められます。

<思考力・判断力・表現力>

- ・自然環境、環境保全に関心をもち科学的手法等により解決法を身につけている者。  
高等学校等、これまでの学習過程において、地球環境を構成する4圏(地圏・気圏・水圏・生物圏)について学習する科目である理科(物理、化学、生物、地学)、情報処理に深く関連する科目である数学や情報を身につけていることが求められます。
- ・得た知識・技能を基に自ら思考を深め、問題解決に向けて適切に判断し、自らの考えを表現できる者。  
環境システム学に関わる教科書や様々な学術書、論文を読み解くことが不可欠です。また、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見や考えを他者へ適切に伝えられることが求められます。そのためには、高等学校等で学習する国語における読解力や表現力が求められます。さらに、国際的情報交換に欠かすことの出来ない外国語の能力が求められます。

<知識・技能>

[生物・地球コース]

- ・高等学校等において地球環境(生物圏、地圏)に関係する理科、情報処理に関係する数学、国際的情報のための英語に関する高い能力・知識を身につけている者。

[気象・水文コース]

- ・高等学校等において地球環境(気圏、水圏)に関係する理科、情報処理に関係する数学、国際的情報のための英語に関する高い能力・知識を身につけている者。

○高等学校等で修得すべき具体的内容

理科

- ・地球環境の実態と時間的な変化について理学的な思考で理解し、自分の考えを的確に示すために必要な理科に関する基礎的知識が求められます。

数学

- ・グラフや基礎的な数式を理解しそれを応用し論理的な思考を展開する力と、数理的素養に基づいて意見を伝えるために必要な数学の基礎的知識が求められます。

情報

- ・レポートや論文の執筆、データ解析などにはIT機器の活用は欠かせません。そのため、パソコンの基本的な技能とともに表計算やプログラミングの基礎的な能力が求められます。

外国語

- ・海外でのフィールドワーク(野外調査)や国際的な情報交換のために必要な語学力の基礎的知識(リスニングやスピーキング)、および英語の文献・資料を読み理解する読解力(リーディングやライティング)が求められます。

国語

- ・他者の意見を適切に理解し、自分の意見を他者へ適切に伝えることが必要です。そのため、文章理解のための読解力、意見を伝えるための表現力が求められます。

地理歴史・公民

- ・水害や日照りなどの環境因子が歴史に及ぼした影響は非常に大きく、その逆に人間活動が自然環境の破壊にもつながっています。産業革命をはじめとする日本や世界の人間活動を認識・理解していることが求められます。

一入学前に求められる学習活動、学習歴一

以上のように、環境システム学科の学びでは、様々な領域の基礎的な学力を身につけていることが必要です。

環境システム学は総合的な科学なので、理科と数学を軸にいろいろな分野を幅広く学んで欲しいと思います。高校で学ぶ理科の基礎知識を自分の中で再構築するとともに、自ら進んで環境に関する本を読んで環境問題に対する興味と学習意欲を高めて欲しいと思います。さらに、マスメディア等を活用して様々な情報を収集・整理する力、他人の意見を正確に理解する力、自分の意見をわかりやすく表

現する力を研鑽し、環境問題の解決ために意見を集約できるコミュニケーション能力を高めて欲しいと思います。

「地理学科」

地球環境科学部地理学科では、学部学科の教育目標に共感し、地理学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。

・学力の三要素に即した求める人物像・

＜主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度＞

- ・地理学に対する強い知的関心と学修意欲、行動力がある者。  
地理学とは、フィールドワーク（野外調査）などを通じて、日本と世界のさまざまな地域の自然や生活文化などに触れて、複雑な背景をひも解き、地域的特性とその成り立ち、地理的事象の原因を解明する総合的な学問です。そのため、地理学を積極的に学び、専門的な知識・技能を身につけていこうとする強い関心と意欲、行動力が求められます。
- ・地理学の専門性を活かして、地域の持続的発展に貢献しようとする意欲と態度がある者。  
地理学の知見は、グローバル化している現代社会のさまざまな場で、地域を理解したり、まちづくりなどの地域振興や自然環境の保全、防災などの活動に役立てることができます。そのため、地域の課題を発見し、その解決に主体的かつ積極的に取り組む意欲と態度が求められます。
- ・世代や国籍にとらわれることなく、自ら他者と協働して学修しようとする意欲と態度がある者。  
地理学は、フィールドワークによる地域調査を重視した学問であるため、地域社会の多様な人たちとのコミュニケーション能力を磨く必要があります。また、年齢や性別、国籍、出身地などにとらわれることなく、自らまわりの人に働きかけ、他者の意見を尊重し、積極的に議論しようとする姿勢や、協働して学修しようとする意欲が求められます。

＜思考力・判断力・表現力＞

- ・高等学校までに培った確かな基礎学力に加え、幅広い主題に応用できる国語的および数理的な論理的思考力、表現力を身につけている者。  
地理学科では、地域の成り立ちや地理的事象を多面的・多角的に学修・研究するために、すべての科目において、プレゼンテーションやグループディスカッションを取り入れています。まわりの学生とともに協調性を持って、地理的思考を互いに高め合います。そのため、物事を筋道立てて考察し、的確に批評する論理的思考力、調べたり考えたりしたことを、自分の意見として適切に他者に伝える表現力が求められます。
- ・地域と社会の諸問題に高い関心を持ち、解決するための地理的思考を身につけている者。  
地理学科の学びは、高等学校までの座学を中心とした地理科目とは異なります。地理的思考を養うためには、フィールドワークで地域社会の人たちから、主体的かつ積極的に話を聞き、質問したり、双方向で話し合いをしたりする高いコミュニケーション能力が必要です。そして、地理学や幅広い教養の知識をまとめて、地域と社会の諸課題を解決するために、自分の言葉で適切に説明する表現力が求められます。
- ・計画的にフィールドワークを遂行する行動力と、行動するための適切な判断力を身につけている者。  
野外でのフィールドワークでは、自ら主体的かつ積極的にさまざまな地域へ赴きます。そのため、実施に対する安全の確保、交通や調査のマナーなどの法の遵守を心がけることが必要です。また、フィールドワークでの新たな発見や危険などに対して、臨機応変に適切な行動するための判断力を身につけていることが求められます。
- ・自分の研究テーマを適切に設定し、自分の考えを的確に表現するための文章力を身につけている者。  
地理学科では卒業研究が必修となっています。授業で学んだことやフィールドワークで観察・観測したことを活かして、自分でテーマと研究対象地域を設定します。既存研究などから研究の意義を見だし、調査計画を立案し、現地でのフィールドワークを実施します。フィールドワークから得られた結果などをもとに図表を作成し、分析・考察した結果を文章にまとめます。そのため、日本と世界の地理に関する図書や新聞記事など論理的な文章を読み、自分の考えを的確に表現するために必要な文章読解力と文章表現力、文章構成力を身につけていることが求められます。

<知識・技能>

- ・以下に示すような、地理学科の専門的な知識・技能の修得に必要な基礎学力を身につけている者。

○高等学校等で修得すべき具体的内容

国語

- ・地理学科では、日本と世界の地理に関する学術論文や専門書などを数多く読み、専門的な知識を蓄積していきます。そのため、教科書や資料等を的確に読み解く文章読解力や、根拠や事例を示して、自分の考えを論理的に表現できる文章表現力、複雑な内容を順序立てる文章構成力、これら一連の作業に必要な論理的思考力の能力を身につけていることが求められます。

外国語

- ・地理学科では、海外の文献や資料から地理に関する情報を得たり、海外フィールドワークや海外留学、留学生と交流する機会があります。そのため、英語で話された内容を正確に聞き取り、自分の意見や考えを英語で表現する語学力（リスニングやスピーキング）や、英語の文献や資料を的確に理解する読解力（リーディング）、論理的で適切な表現を用いて英文を書く作文力（ライティング）の能力を身につけていることが求められます。また、英語以外の言語についても興味関心を持つことで、世界に対する視野はさらに広がります。

地理歴史

- ・地理学科では、日本と世界のさまざまな地域を対象に、地形や気候、水、植生、自然災害などをとらえる「自然地理学」と、人口や経済、産業、都市・農村、交通、観光などをとらえる「人文地理学」、特定地域における地域性格を自然環境と人間生活との関係から総合的にとらえる「地誌学」を深く学びます。また、地図・GIS（地理情報システム）、測量などに関する高い技能を身につけます。そのため、地理科目の高い知識・技能、地理的な見方・考え方を身につけていることが求められます。さらに、地域の特性とその成り立ちは、複数の地域が相互に作用するなど、さまざまな要素が複雑に絡み合っています。歴史的な観点から正しく地域の成り立ちを読み解くために、歴史科目の基礎的な知識を身につけていることも求められます。

公民

- ・地理学科では、フィールドワークで、都市開発や地域振興、自然環境の保全、防災などの取り組みに関する地域調査も行います。そのため、グローバル化している現代社会の動向などについて、最新の情報を収集して正しく理解することと、資本主義社会における選択・判断の手がかりとなる概念や理論、行政のしくみなど、公民科目の基礎的な知識や考え方を身につけていることが求められます。

数学

- ・地理学科では、地形や気候、水、人口、産業などあらゆる分野において、コンピュータを用いて統計や確率の計算を行い、数学的な考え方や理論を修得します。また、物事を論理的に深く考える力を養う上でも数学の知識が役に立ちます。そのため、測量に必要な三角関数などの関数の知識や確率統計など、数学科目の基礎的な知識や考え方を身につけていることが求められます。

理科

- ・地理学科で学ぶ自然地理学では、自然現象に対する関心を持ち、目的意識をもって観察・観測を通じて、科学的に探究します。自然科学を理解し活用することや論理的に考察する力を養う上でも、理科の知識が役に立ちます。そのため、理科科目の基礎的な知識や考え方を身につけていることが求められます。

情報

- ・地理学科では、レポートや卒業論文を作成、データ分析などを行うために、コンピュータやICT機器などを活用することが不可欠です。そのため、情報に関わる倫理やモラル、適切に情報を収集・処理・発信したり、文章作成や表計算処理、プレゼンテーションのソフトの操作など、情報科目の基礎的な知識・技能を身につけていることが求められます。

←入学前に求められる学習活動、学習歴→

上記のように、地理学はフィールドワークを重視した総合的な学問なので、様々な領域の基礎的な学力を身につけていることが必要です。

そのために、高等学校等これまでの学習過程において、日本と世界のさまざまな地域の自然と人間・社会との関係に強い関心を持ち、地域の特性や歴史的展開、現代社会の動向などについて、地理歴史・公民科目の知識・技能を身につけることが重要です。そして、世界と日本の地理に関する本や新聞記事を読んだり、マスメディアを通じて、学習意欲をさらに高めてください。

また、数学・理科・情報等の科目で、さまざまな情報を収集し、数理解理に基づいて物事を深く論理的に考えるための知識と能力、国語・英語科目で、聞く、話す、読む、書くといった、コミュニケーション能力や表現力を磨いてください。英語能力に関する資格取得も学習の達成を確認する上で役立ちます。

こうした取り組みは、入学後の地理学科での学びを生きた知識として定着させることにつながります。		
--	--	--

<心理学部>

卒業認定・学位授与の方針 (DP)	責任関係	備考
<p>心理学部は、各学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的知識と技能を活かして、社会に貢献していこうとする態度を身につけている。</li> <li>・他者と協働して学習し、諸問題を協動的に解決しようとする態度を身につけている。</li> <li>・国際化社会における多様な価値観を理解・受容する態度を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の専門的知識と技能を踏まえ、未解決の問題を発見し、その解決のために科学的に考える能力を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間・社会の諸問題を解決に導くための臨床心理学または対人・社会心理学の専門的知識を身につけている。</li> <li>・臨床心理学または対人・社会心理学の専門的知識を探究するための研究手法に関する知識を身につけている。</li> <li>・各学科が掲げる教育目的を実現するための基盤となる幅広い教養と知識を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間・社会の諸問題を解決に導くための臨床心理学または対人・社会心理学に基づいた専門的スキルを身につけている。</li> <li>・国際化社会において自らの考えを主体的に他者に伝えるコミュニケーション能力を身につけている。</li> <li>・情報化社会に必要な情報技術に関する知識と情報機器の操作スキルを身につけている。</li> </ul> <p>「臨床心理学科」 心理学部臨床心理学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理学に関わる専門的知識と技能を活かして、社会に貢献していこうとする態度を身につけている。</li> <li>・臨床心理学の専門的知識と技能を活かし、心理臨床領域の諸問題を解決しようとする態度を身につけている。</li> <li>・心理臨床領域の諸問題について、エビデンスに基づいて検証しようとする実証的態度を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理学の専門的知識と技能を踏まえ、心理臨床領域で未解決の問題を発見し、その解決のために科学的に考える能力を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的援助を必要とする人を理解し、適切なケアを実践するための臨床心理学の専門的知識を身につけている。</li> <li>・臨床心理学の専門的知識を探究するための研究方法に関する知識を身につけている。</li> <li>・心理的援助を必要とする人を理解し、適切なケアを実践するために必要な幅広い知識を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理学の専門的知識を探究するための研究方法を身につけている。</li> <li>・心理的援助を必要とする人を理解するための専門的スキルを身につけている。</li> <li>・心理的援助を必要とする人に対して適切なケアを実践するための臨床心理学の専門的スキルを身につけている。</li> </ul> <p>「対人・社会心理学科」 心理学部対人・社会心理学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人・社会心理学の専門的知識と技能を活かし、社会に貢献しようとする態度を身につけている。</li> </ul>		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人・社会心理学の専門的知識と技能を活かし、よりよい社会を構築していこうとする態度を身につけている。</li> <li>・社会で生ずるさまざまな心理現象についてエビデンスに基づいて検証しようとする実証的態度を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人・社会心理学の専門的知識と技能を踏まえ、社会における未解決の問題を発見し、その解決のために科学的に考える能力を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変動する社会の諸問題を解決するために必要な対人・社会心理学の専門的知識を身につけている。</li> <li>・対人・社会心理学の専門的知識を探究するための研究手法に関する知識を身につけている。</li> <li>・変動する社会の諸問題を理解するために必要な幅広い知識を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人・社会心理学の専門的知識を探究するための研究手法を身につけている。</li> <li>・日常的な対人関係を円滑に進めるために必要な実践的な対人スキルを身につけている。</li> <li>・自分の考えを表現し、聞く人に対して理解を得るためのコミュニケーションスキルを身につけている。</li> </ul>		
---	--	--

教育課程編成・実施の方針 (CP)	責任関係	備考
<p>心理学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育科目（基礎演習、学修の基礎）の履修により、学ぶことへの意欲を高め、協働的学習態度を身につけます。</li> <li>・教養的科目を設置し、心理学を学修する上で基盤となる教養的知識を身につけます。</li> <li>・情報処理科目を履修することにより、情報化社会での活動の基礎となる情報処理技能を身につけます。</li> <li>・キャリア教育科目の履修により、修得した知識・技能を社会に活かして社会に貢献していこうとする態度を身につけます。</li> <li>・外国語科目ならびに異文化理解のための教養的・専門科目の履修により、国際化社会における多様な価値観を理解しようとする態度を身につけるとともに、外国語によるコミュニケーション技能を身につけます。</li> <li>・専門科目教育では、講義、実験・実習、演習など様々な形式で、体系的に科目を設置し、各学科が目標に掲げる知識と技能を習得します。</li> <li>・心理学の幅広い領域に関する科目を設置し、さまざまな心理現象の背景にある心の仕組みや現象を説明する心理学諸理論に関する知識を修得します。</li> <li>・演習では専門的知識と技能の学修を深めながら、自ら問題を発見してその解決を図る思考と実践の機会を持ちます。</li> <li>・卒業論文・卒業研究では、未解決の問題を発見し、研究を企画・実施し、解決のための考察を加えるという一連の過程を経験します。</li> </ul> <p>「臨床心理学科」</p> <p>心理学部臨床心理学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、専門科目において、公認心理師となるために必要な科目を配置します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目を体系的に学ぶためにカリキュラムを5領域で編成します。</li> <li>・「心理学理論」、「臨床心理学・カウンセリング」の領域に関わる選択科目では、心理学の基礎的領域とともに臨床心理学の専門的知識を幅広く習得します。</li> <li>・「アカデミックスキル」に関わる科目では、心理臨床領域における問題を発見し、科学的に解析する能力を養います。</li> <li>・「心を理解する」の領域に関わる科目では、臨床心理学において他者を理解するための心理アセスメントに関する専門的知識と技能を習得します。</li> <li>・「心に働きかける」の領域に関わる科目では、心理臨床領域における援助に関する専門的知識と技能を習得します。</li> <li>・3年次必修科目の臨床心理学演習では、専門的知識と技能の学修を深めながら、自ら問題を発見してその解決を図る思考と実践の機会を持ちます。</li> </ul>		

<p>・4年次必修の卒業論文・卒業研究では、自らの問題意識に基づき心理臨床領域における問題を発見し、研究を企画・実施し、解決のための考察を加えるという一連の過程を経験します。</p> <p>「対人・社会心理学科」 心理学部対人・社会心理学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年進行に沿って、様々な社会事象を科学的に検討するために必要な調査・実験・メディア分析などの対人・社会心理学固有の研究スキルを「スキル系」科目や必修の心理学統計法、心理学実験の中で体系的に学修します。</li> <li>・低学年次では、対人・社会心理学概論を必修科目として学ぶとともに、心理学全般の領域を扱う選択科目Ⅱ（基礎・応用）を学修します。高学年次では選択科目Ⅱ（公認心理師）も学修できます。</li> <li>・対人・社会心理学の下位分野としての「自己」「対人」「集団」「文化」の4領域にわたる選択科目Ⅰを学修します。</li> <li>・日常的な対人関係やコミュニケーションを円滑に進めるために必要な「スキル系」実践的トレーニングを学修します。</li> <li>・3年次必修科目の対人・社会心理学演習では、対人・社会心理の専門的知識と技能の学修を深めながら、自ら問題を発見してその解決を図る思考と実践の機会を持ちます。</li> <li>・4年次必修の卒業論文・卒業研究では、自らの問題意識に基づき社会的事象における未解決の問題を発見し、研究を企画・実施し、解決のための考察を加えるという一連の過程を経験します。</li> </ul>		
--	--	--

入学者受入れの方針（AP）	責任関係	備考
<p>心理学部では、学部の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学に対する強い知的関心と学習意欲をもっている者。</li> <li>・心理学の専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。</li> <li>・心理学の研究に必要な自らの知識・技能を活用して問題を解決するための思考力、判断力を身につけている者。</li> <li>・心理学の専門的知識の修得に必要なコミュニケーション能力、自己表現能力、および共感性を身につけている者。</li> <li>・他者と協働して学修しようとする意欲をもっている者。</li> <li>・心理学の専門性を活かして社会に貢献したいという意欲をもっている者。</li> </ul> <p>「臨床心理学科」 心理学部臨床心理学科では、学部学科の教育目標に共感し、臨床心理学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。</p> <p>・学力の三要素に即した求める人物像 &lt;主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理学に対する強い知的関心と学修意欲をもっている者。 臨床心理学を積極的に学び、専門性を身につけていこうとする強い関心・意欲が何より求められます。</li> <li>・臨床心理学の専門性を活かして社会に貢献したいという意欲をもっている者。 臨床心理学の知見は、将来専門的な心理支援の領域に進むか否かに関わらず、様々な場で人の理解・支援に役立てることが出来ます。そのため、卒業後も臨床心理学の専門性をいかして、積極的に社会に貢献したいという意欲が求められます。</li> <li>・他者と協働して学修しようとする意欲をもっている者。 臨床心理学は人の理解・支援を扱う学問であるため、他者とのかかわりを通じた学びの経験は不可欠です。具体的には、ディスカッションやグループワーク、ロールプレイや実習などによる学修の機会が多く存在します。そのため、このような場面を通して他者と協働して学修しようとする意欲が求められます。</li> </ul>		

<p>&lt;思考力・判断力・表現力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学の専門的技術の修得に必要なコミュニケーション能力、自己表現能力、および共感性を身につけている者。 臨床心理学の学修では、教科書や様々な学術書、論文を読むことが不可欠です。また、学びの課程では、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を他者へ適切に伝えることが求められます。そのため、高等学校の「国語」におけるこうした文章理解のための読解力、意見を伝えるための表現力が求められます。</li> <li>臨床心理学の研究に必要な自らの知識・技能を活用して問題を解決するための思考力、判断力を身につけている者。 臨床心理学の研究では、統計的な手法を用いたデータ分析が重要な役割を果たします。こうした研究手法、技法をより円滑に理解するために高等学校における「数学」の確率統計の基本的な考え方を身につけていることが求められます。</li> </ul> <p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下に示すような、臨床心理学の専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。</li> </ul> <p>○高等学校等で修得すべき具体的内容</p> <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学の学修では、教科書や様々な学術書、論文を読むことが不可欠です。また、学びの課程では、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を他者へ適切に伝えることが求められます。そのため、こうした文章理解のための読解力、意見を伝えるための表現力が求められます。</li> </ul> <p>地理歴史・公民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去から現代まで、人のあらゆる営みが臨床心理学を深く理解するための重要な知識となります。また、臨床心理学が人と社会との中でどのように位置づけられるのかを理解することも必要です。そのため、人と社会の関わりの中で理解するための基礎的な知識、および歴史、文化に対する知的好奇心が求められます。</li> </ul> <p>外国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学の学修では、外国語文献を読む機会も多くあります。また、実践の中では様々な文化的背景を持つ人々とかかわることになります。そのため、臨床心理学に関するより多くの知識を獲得するための基本的な英語力（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）、および獲得した知識を社会に還元するための国際的な視野が求められます。</li> </ul> <p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学の研究では、統計的な手法を用いたデータ分析が重要な役割を果たします。こうした研究手法、技法をより円滑に理解するための確率統計の基本的な考え方を身につけていることが求められます。</li> </ul> <p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人の心の基盤には生物学的な仕組みが存在しています。例えば脳や神経系、遺伝のメカニズムなどの知識も、心の理解には重要です。そのため、生物としての人間の適応性を理解するための基本的なメカニズムに関する知識が求められます。</li> </ul> <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートや論文の執筆、データの分析などを行うためにはIT機器の活用は欠かせません。そのため、調査、実験等におけるデータ処理を円滑に行うためのパソコンの基本的な技能が求められます。</li> </ul> <p>－入学前に求められる学習活動、学習歴－</p> <p>上記のように、臨床心理学科の学びでは、様々な領域の基礎的な学力を身につけていることが必要です。そこでまずは、高等学校等での正課の学びにしっかりと取り組み、基本的な能力を身につけることが何より重要です。こうした過程で、英語能力に関する資格などを取得することも、学習の達成を確認する上で役立ちます。</p> <p>また、学業だけでなく、身の回りの人とコミュニケーションを取る、様々な社会問題に触れる、色々な本を読むなどの活動を通して、日ごろから人の心について自分なりに考えを深めることも重要です。こうした取り組みは、入学後の学びを生きた知識として定着させることにつながります。</p>		
--	--	--



「対人・社会心理学科」

心理学部対人・社会心理学科では、学部学科の教育目標に共感し、対人・社会心理学科での学修に取り組んでいくために必要な、以下に示す能力等を身につけている者の入学を期待します。

・学力の三要素に即した求める人物像・

＜主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度＞

- ・ 対人・社会心理学に対する強い知的関心と学修意欲をもっている者。  
対人・社会心理学を積極的に学び、専門性を身につけていこうとする強い関心・意欲が何より求められます。
- ・ 対人・社会心理学の専門性を活かして社会に貢献したいという意欲をもっている者。  
対人・社会心理学の知見や研究の方法論は、将来、心理学研究の領域に進むか否かに関わらず、様々な場で人々の心の動きを理解し、実証的な枠組みを用いて社会や組織のあり方を提案することができます。そのため、卒業後も対人・社会心理学の専門性をいかして、積極的に社会に貢献したいという意欲が求められます。
- ・ 他者と協働して学修しようとする意欲をもっている者。  
対人・社会心理学は人々の心の動きを科学的に理解することを志向する学問であるため、他者とのかかわりを通じた学びの経験は不可欠です。具体的には、ディスカッションやグループワーク、実験や実習などによる学修の機会が多く存在します。そのため、このような場面を通して他者と協働して学修しようとする意欲が求められます。

＜思考力・判断力・表現力＞

- ・ 対人・社会心理学の専門的技能の修得に必要なコミュニケーション能力、自己表現能力、および共感性を身につけている者。  
対人・社会心理学の学修では、教科書や様々な学術書、論文を読むことが不可欠です。また、学びの課程では、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を他者へ適切に伝えることが求められます。そのため、高等学校の「国語」におけるこうした文章理解のための読解力、意見を伝えるための表現力が求められます。
- ・ 対人・社会心理学の研究に必要な自らの知識・技能を活用して問題を解決するための思考力、判断力を身につけている者。  
対人・社会心理学の研究では、統計的な手法を用いたデータ分析が重要な役割を果たします。こうした研究手法、技法をより円滑に理解するために高等学校における「数学」の確率統計の基本的な考え方を身につけていることが求められます。

＜知識・技能＞

- ・ 以下に示すような、対人・社会心理学の専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけている者。

○高等学校等で修得すべき具体的内容

国語

- ・ 対人・社会心理学の学修では、教科書や様々な学術書、論文を読むことが不可欠です。また、学びの課程では、プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を他者へ適切に伝えることが求められます。そのため、こうした文章理解のための読解力、意見を伝えるための表現力が求められます。

地理歴史・公民

- ・ 過去から現代まで、人のあらゆる営みが対人・社会心理学を深く理解するための重要な知識となります。また、対人・社会心理学が人々と社会をどのように結びつけるのかを理解することも必要です。そのため、人々と社会がどのように関係しているのかを理解するための基礎的な知識、および歴史、文化に対する知的好奇心が求められます。

外国語

- ・ 対人・社会心理学の学修では、外国語文献を読む機会も多くあります。また、実践の中では様々な文化的背景を持つ人々とかかわることになります。そのため、対人・社会心理学に関するより多くの知識を獲得するための基本的な英語力(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)、および獲得した知識を社会に還元するための国際的な視野が求められます。

<p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対人・社会心理学の研究では、統計的な手法を用いたデータ分析が必須となります。こうした研究手法、技法をより円滑に理解するための確率統計の基本的な考え方を身につけていることが求められます。</li> </ul> <p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人の心の基盤には生物学的な仕組みが存在しています。例えば脳や神経系、遺伝のメカニズムなどの知識も、心の理解には重要です。そのため、生物としての人間の適応性を理解するための基本的なメカニズムに関する知識が求められます。</li> </ul> <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートや論文の執筆、データの分析などを行うためにはIT機器の活用は欠かせません。そのため、調査、実験等におけるデータ処理を円滑に行うためのパソコンの基本的な技能が求められます。</li> </ul> <p>入学前に求められる学習活動、学習歴</p> <p>上記のように、対人・社会心理学の学びでは、様々な領域の基礎的な学力を身につけていることが必要です。そこでまずは、高等学校等での正課の学びにしっかりと取り組み、基本的な能力を身につけることが何より重要です。こうした過程で、英語能力に関する資格などを取得することも、学習の達成を確認する上で役立ちます。</p> <p>また、学業だけでなく、身の回りの人とコミュニケーションを取る、様々な社会問題に触れる、色々な本を読むなどの活動を通して、日ごろから社会現象や社会の影響を受けている対人関係について自分なりに考えを深めることも重要です。こうした取り組みは、入学後の学びを生きた知識として定着させることにつながります。</p>		
---	--	--

<データサイエンス学部>

<b>卒業認定・学位授与の方針 (DP)</b>	責任関係	備考
<p>データサイエンス学部データサイエンス学科では、データサイエンス学部データサイエンス学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスをビジネスに活かすことに関心を持ち、現代社会に貢献しようとする意欲がある。</li> <li>現代社会・経済の諸問題をエビデンスに基づいて検証する実証的態度を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスの知識と技能を用いて、様々な分野において新たな価値を生み出すことができる。</li> <li>データサイエンティストとして必要なモラルを理解し身につけたうえで、主体性を発揮することができる。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスに必要な基本的な数理的知識を身につけている。</li> <li>データサイエンスを応用し新たな価値を創造するために必要な現代社会・経済に関する知識を身につけている。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会・経済で広く求められている、データサイエンスに基づく基礎的・応用的な技能を身につけている。</li> </ul>		

<b>教育課程編成・実施の方針 (CP)</b>	責任関係	備考
<p>データサイエンス学部データサイエンス学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンス学部データサイエンス学科は、現代社会・経済で広く求められている、データサイエンスに基づく基礎的・応用的な技能を身につけるためのカリキュラムを設けます。</li> <li>自らの興味関心に基づき主体的な学修を続け現代社会・経済に貢献しようとする意欲を育てるため教養的科目と演習科目を設置します。</li> <li>データサイエンスに対する興味関心を持ち、その全体像を理解するとともに基本的な数理的知識を身につけるために、数学・統計学・情報科学分野の導入的科目を必修科目として設置します。</li> <li>データサイエンティストに必要なエビデンスに基づいて検証する実証的態度やモラルを身につけるため専門基礎科目群を設置します。</li> <li>現代社会・経済の諸問題に取り組むためデータの収集・加工・分析に関する知識・技能を身につけ、様々な分野において新たな価値を創造できるようデータサイエンス科目群を設置します。</li> </ul>		

・経済価値の創造を担うために必要な現代社会・経済に関する知識・技能を身につけることを目的として価値創造科目群を設置します。		
---	--	--

入学者受入れの方針 (AP)	責任関係	備考
<p>データサイエンス学部データサイエンス学科では、学科の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンス学の専門的知識の修得に必要な基礎的な学力を有している者。</li> <li>・データサイエンスに対する強い知的好奇心と学修意欲を持つ者。</li> <li>・高等学校等の学習履歴にかかわらず、データサイエンス技術とその技術を活用することが出来る諸分野（ビジネス・観光・社会・スポーツなど）に強い関心を持ち、現代社会・経済の諸問題の解決に意欲を持つ者。</li> </ul> <p>・学力の三要素に即した期待する能力</p> <p>＜主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会・経済の諸問題を解決するために、失敗を恐れず果敢にチャレンジできる者。 データサイエンス学部では、データを多様に使って、社会経済の諸問題を発見し、それを解決する強い関心・意欲を持つことが求められます。</li> <li>・現代社会・経済の諸問題を解決するために、他者とのコミュニケーションを積極的に行う姿勢が身についている者。 データサイエンス学部では、社会経済の諸問題を発見するために、常に多くの人と対話し、問題意識を共有することが求められます。</li> <li>・世代や国籍にとらわれることなく、自ら働きかけ協働することができる者。 データサイエンス学部では、世界規模での社会経済の諸問題を解決するために、世代や国籍を超えた協力・協働が求められます。</li> <li>・社会調査士や統計検定のようなデータサイエンティストに関わる資格を取得する意欲をもっている者。 データサイエンス学部では、数多くの技術や技能を身につけることが求められます。その学修過程で、データサイエンス関連の資格を取得することを推奨します。</li> </ul> <p>＜思考力・判断力・表現力＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会・経済の諸問題について強い知的関心を持ち、論理的に考えることができる者。 データサイエンス学部では、アルゴリズムのデザインやプログラム作成に関して、社会経済の制度や法律を理解し、それを論理的に表現することが求められます。高等学校では「国語」「地理歴史・公民」「外国語」「数学」「理科」「情報」などを総合的にバランスよく学ぶことが求められます。</li> <li>・新たに得られた知識や情報をプレゼンテーションなどの方法を用いて適切に表現し、相手に内容を正確に伝えることができる者。 データサイエンス学部では、自分の発見した問題やその解決方法を、第三者に適切に説明することが求められます。自分の考え方や論理をわかりやすく、かつ厳格に伝える表現力が求められます。</li> </ul> <p>＜知識・技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校等においてデータサイエンス学に係る数学、国際的情報交換に欠かすことが出来ない外国語に関する能力・知識を身につけている者。 データサイエンス学部では、数学・統計学・英語は共通言語として日常的に使われます。これらは学修科目というよりは、日常生活で必要な能力・知識であるという位置づけです。これらの能力・知識を日々高めていくことが求められています。</li> <li>・データサイエンス学の修得に深く関連するコンピュータやネットワーク活用の基礎的な能力を身につけている者。 データサイエンス学部では、コンピュータやインターネットは、日常的に使う道具です。その道具の仕組みや注意点についてよく理解し、その上で、プログラミングをしたり、アプリを開発したりすることが求められています。</li> </ul>		

○高等学校等で修得すべき具体的内容

国語

- ・データサイエンス学やそれに関連する分野の専門書や学術論文などを理解し最新の知識や技術を修得するための読解力、自身の考えを正確に相手に伝えるための表現力や文章力。

データサイエンス学部では、問題設定能力や問題解決能力の修得を目指しますが、問題や解決策は、最終的には適切な国語によって表現されなければなりません。自分の考えを適切な国語を使って、伝えることは非常に大切なことです。

外国語

- ・データサイエンス学やそれに関連する分野の知識を獲得するために必要な英文法・語彙力・リーディング・リスニングの基礎的な能力、および新たに得られた知識や情報を発信するために必要となるライティング・スピーキングの基礎的な能力。

データサイエンスの世界には国境はありません。他国の人々との交流をスムーズに行うためには、実用に耐える英語能力は必須です。データサイエンスに関する最新の研究成果や発見も多くは英語で発表されます。こちらからも英語で発信をすることで、初めて国際的な認知が得られます。総合的な英語能力を身につけることを求めます。

地理歴史・公民

- ・現代社会の仕組みや諸問題に関する基礎的な知識。

データサイエンスの基礎になる問題発見の多くは社会制度や歴史的課題に関する分野で行われます。また、プログラムやアプリの作成において、社会の仕組みや法律、制度に関する知識が求められることも多く、その知識を身につけておくことも必要です。

数学

- ・グラフや基礎的数式および数理的な構造を理解し、それを応用することによって論理的な思考を展開する能力。

データサイエンスの世界では、最適化問題を解くために微分・積分や行列の基礎知識を、統計分析を行うために確率・統計の基礎知識を使うので、数学の基礎知識を身につけておくことが必要です。

情報

- ・データサイエンス学の修得に深く関連するコンピュータやネットワーク活用の基礎的な能力。

データサイエンスの世界では、コンピュータやインターネットを活用して、データの取得、データの前処理や分析を頻繁に行うので、基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識・能力が求められます。

ー入学前に求められる学習活動、学習歴ー

上記のように、データサイエンス学部の学びでは、様々な領域の学力をバランスよく身につけていることが求められます。そこでまず、高等学校までの正課の学びに取り組み、基本的な知識・能力を身につけておくことが大切です。

データサイエンスの世界では、社会経済の諸問題の発見とその解決を目指すことから、社会科学的な視点と数理科学的な視点の両方が求められます。そのためには高等学校でも、社会問題に関する意識を高め、他の人とコミュニケーションをとり、人を説得する能力を身につけておくことも大切です。